

高松市内遺跡発掘調査概報

高松市内遺跡発掘調査概報

—平成30年度国庫補助事業—

—平成三十一年度国庫補助事業—

—一〇一九年三月

2019年3月

高松市教育委員会

高松市教育委員会

例 言

- 1 本書は、高松市教育委員会が平成 30 年度（一部、29 年度も含む）に国庫補助事業として実施した高松市内遺跡発掘調査事業の概要報告書である。
- 2 本書には国庫補助事業のうち、高松市内遺跡発掘調査事業として平成 29 年 12 月から 30 年 11 月にかけて実施した試掘調査及び内容確認調査について収録した。なお、30 年 12 月以降の実施分については、次年度に報告する予定である。
- 3 調査は、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員 渡邊 誠・高上 拓・船築 紀子・波多野 篤・香川 将慶・梶原 慎司、同非常勤嘱託職員 中西 克也・上原 ふみ・森原 奈々・磯崎 福子・大迫 敏美・三輪 望・益崎 卓巳が担当した。
- 4 本書の執筆は渡邊・高上・波多野・船築・香川・梶原・森原が行い、編集は森原が担当した。
- 5 調査の実施にあたっては、下記の方々及び関係諸機関の御指導・御協力を得た。（敬称略・順不同）。
大久保 敬也、信里 芳紀、石船天満宮、浅野小学校
- 6 本書の挿図として、高松市都市計画図 2 千 5 百分の 1 を 5 千分の 1 に改変して使用した（調査地位置図内の網かけは、調査対象地を示し、色の濃い部分は包蔵地を示す）。
- 7 本書のうち標高値を示したものは海拔高を表し、座標は国土座標 IV 系（世界測地系）に拠った。
- 8 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

目 次

第 1 章 高松市内遺跡発掘調査事業（平成 29 年 12 月～30 年 11 月）	1
1. 旧南海道路、萩前・一本木遺跡	1
2. 旧南海道路、萩前・一本木遺跡	5
3. 龍満城跡	7
4. 上天神遺跡	8
5. 中林遺跡	10
6. 多肥上立石遺跡、旧南海道路	11
7. 溶・長池遺跡	13
8. 峰友遺跡	14
9. 上西原遺跡	16
10. 新田本村遺跡	17
11. 条里跡	18
12. 新名氏屋敷跡	19
13. 中林遺跡	20
14. 川島郷遺跡	21
15. 東井坪地区	21
16. 松ノ内遺跡	21
17. 飯田西 13・14・17・18・23 号塚	22
18. 池の内遺跡 II	22
19. 大工町地区、磨屋町地区	22
21. 宮西・一角遺跡	23
22. 須川地区	23
20. 宮尻地区	23
23. 内町地区	24
24. 座田地区	24
25. 東山崎・水田遺跡	24
26. 日暮地区	25
27. 平塚地区	25
28. 御厩池遺跡	25
29. 屋島山上南嶺地区	26
30. 半田地区	26
31. 旧南海道路	26
32. 平塚地区	27
33. 道下地区	27
34. 万灯地区	27
第 2 章 重要遺跡確認調査（平成 29 年 12 月～30 年 11 月）	28
35. 勝賀城跡	28
36. 今岡古墳	29
37. 浅野小学校所在石棺	30
38. 三谷石舟古墳	30
39. 石船石棺	34
40. 史跡高松城跡	34
41. 史跡高松城跡	35



- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 旧南海道跡・萩前・一本木遺跡 | 32 平塚地区 |
| 2 旧南海道跡・萩前・一本木遺跡 | 33 道下地区 |
| 3 龍満城跡 | 34 万灯地区 |
| 4 上天神遺跡 | 35 勝賀城跡 |
| 5 中林遺跡 | 36 今岡古墳 |
| 6 多肥上立石遺跡、旧南海道跡 | 37 渋野小学校所在石棺 |
| 7 岩・長池遺跡 | 38 三谷石舟古墳 |
| 8 峰友遺跡 | 39 石船石棺 |
| 9 上西原遺跡 | 40 史跡高松城跡 |
| 10 新田本村遺跡 | 41 史跡高松城跡 |
| 11 条里跡 | |
| 12 新名氏屋敷跡 | |
| 13 中林遺跡 | |
| 14 川島郷遺跡 | |
| 15 東井坪地区 | |
| 16 松ノ内遺跡 | |
| 17 飯田西13・14・17・18・23号塚 | |
| 18 池之内遺跡II | |
| 19 大工町地区、磨屋町地区 | |
| 20 宮西・一角遺跡 | |
| 21 須川地区 | |
| 22 宮尻地区 | |
| 23 内町地区 | |
| 24 蓬田地区 | |
| 25 東山崎・水田遺跡 | |
| 26 曜暮地区 | |
| 27 平塚地区 | |
| 28 御殿池遺跡 | |
| 29 屋島山上南嶺地区 | |
| 30 半田地区 | |
| 31 旧南海道跡 | |

第1図 調査位置図

第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（平成29年12月～30年11月）

きゅうなんかいどうあと はぎのまえ いっぽんぎせき 1. 旧南海道跡、萩前・一本木遺跡

- 1 所 在 地 高松市仏生山町、出作町
- 2 調査期間 平成29年11月27日～12月6日
- 3 調査担当者 舩築 紀子・上原 ふみ・大迫 敏美
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

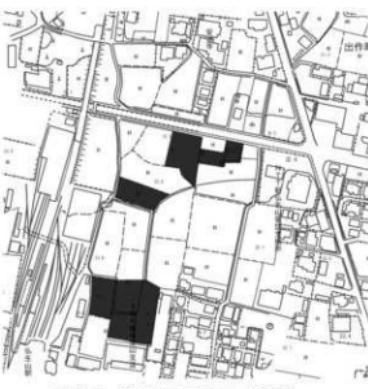
対象地の一部は、周知の埋蔵文化財公表地「旧南海道跡」の範囲内にある。宅地造成工事が計画されたため、土地所有者の同意を得て、計18本のトレンチを設置して確認調査を実施した。

旧南海道跡の南側に設置した1～8トレンチでは、旧南海道跡の推定ライン上に平安時代と考えられる大規模な溝を検出したほか、竪穴建物が切り合い関係をもって複数棟確認できた。遺物は1トレンチから須恵器壺蓋(1)、2トレンチから須恵器杯蓋(2)、4トレンチから土師器鍋(3)・土師器甕(4)、5トレンチから須恵器杯B(5)・須恵器壺(6)、8トレンチから須恵器杯身(7)が出土した。

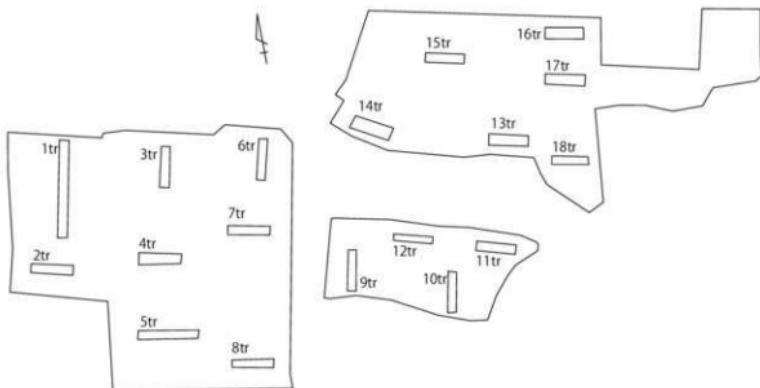
旧南海道跡よりも北側の9～13、16～18トレンチでは、溝と流路と考えられる遺構を確認したほか、16トレンチでは現耕作土の下層、旧耕作土の上層に造成土が確認できた。造成土の中には、機関銃の弾(9)が含まれており、戦後に周辺を造成し、地盤の底上げを行ったと考えらえる。このほか須恵器杯身(8)が出土した。

6まとめ

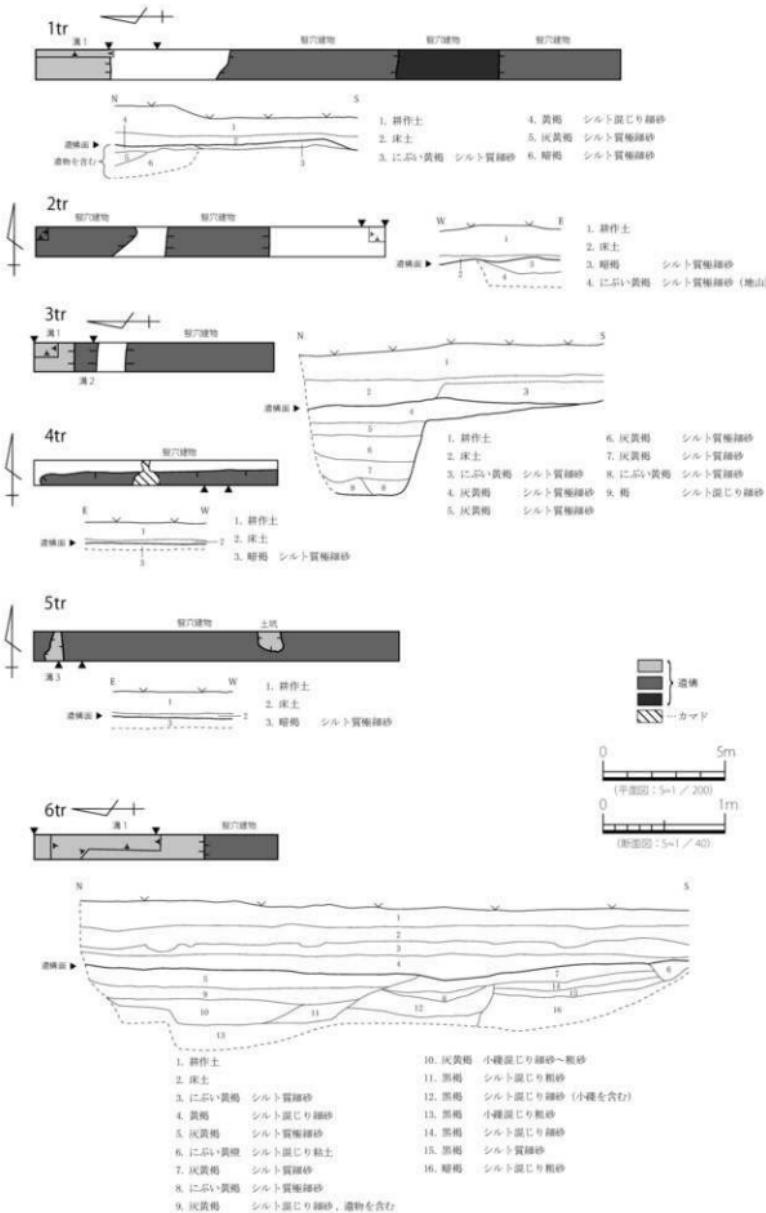
今回の確認調査によって、複数の遺構を確認した。遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期末～平安時代に属すると考えられる。今回の調査範囲に近接する萩前・一本木遺跡と遺構の内容や時期が同一であることから、同遺跡が調査範囲にも広がっているものと考えられる。しかし、旧南海道跡については、推定ライン上に大型の溝を確認したのみで、道路の痕跡を確認することはできなかった。対象地は「萩前・一本木遺跡」に追加登録された。今後、適切な保護措置が必要である。(舩築)



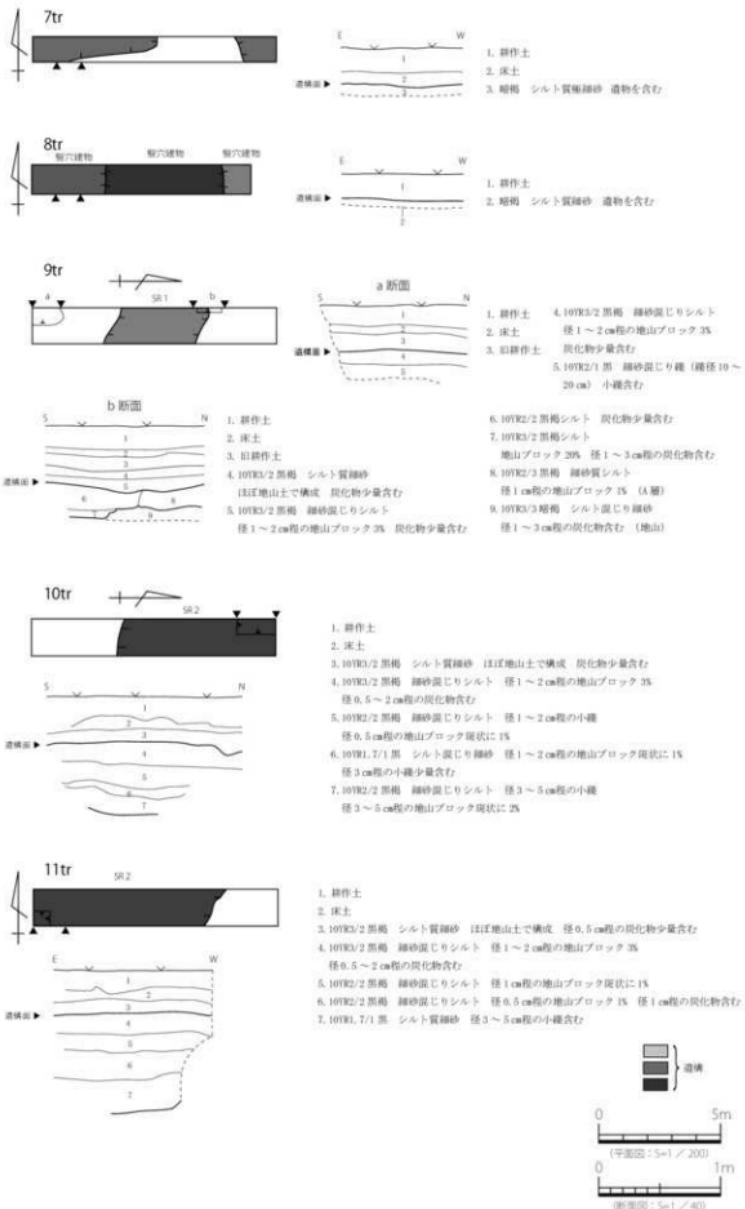
第2図 調査位置図 (S=1/5000)



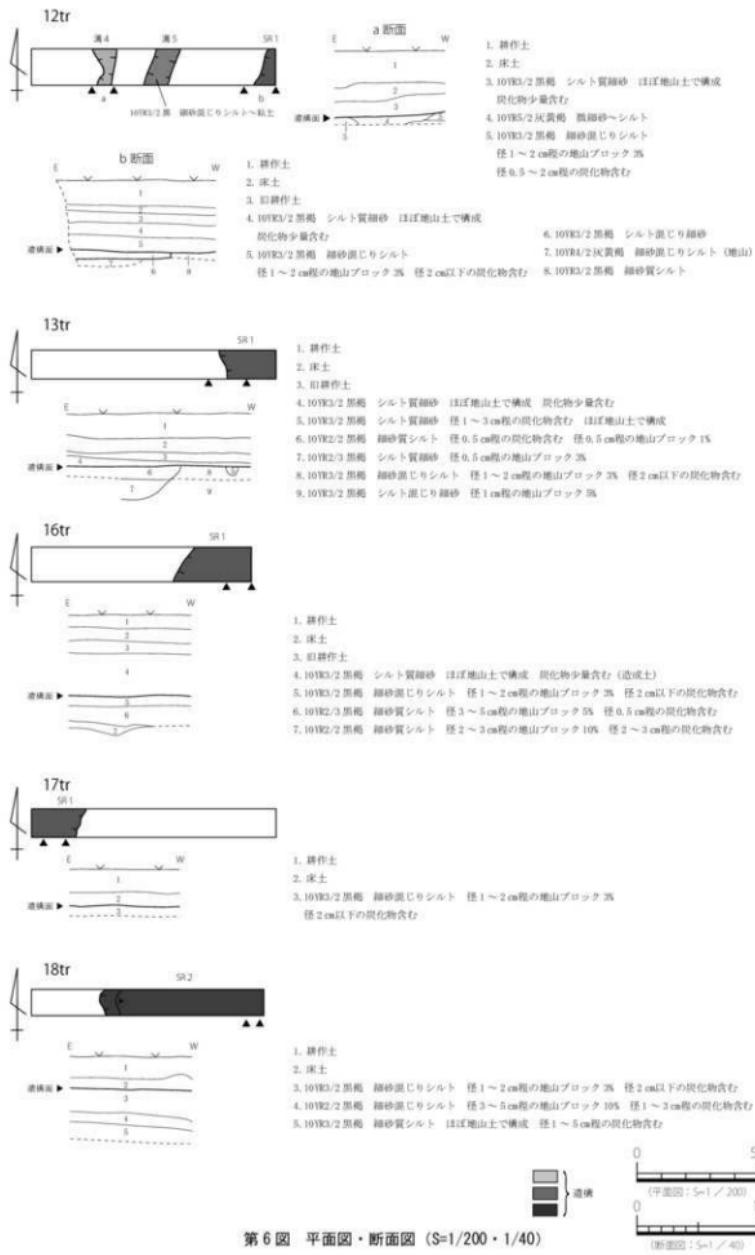
第3図 トレンチ配置図 (S=1/200)

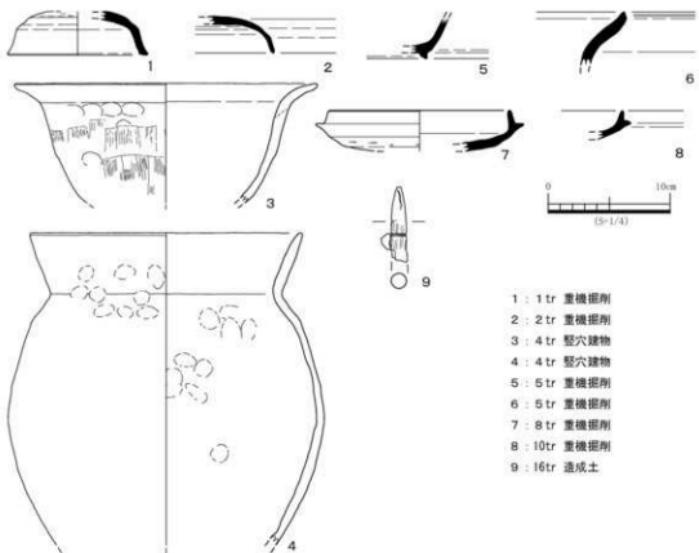


第4図 平面図・断面図 ($S=1/200 \cdot 1/40$)



第5図 平面図・断面図 ($S=1/200$, $1/400$)





第7図 遺物実測図 (S=1/40)

2. 旧南海道跡、萩前・一本木遺跡

- 1 所 在 地 高松市仏生山町
- 2 調 査 期 間 平成 30年1月25日
- 3 調 査 担 当 者 船築 紀子・磯崎 福子
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

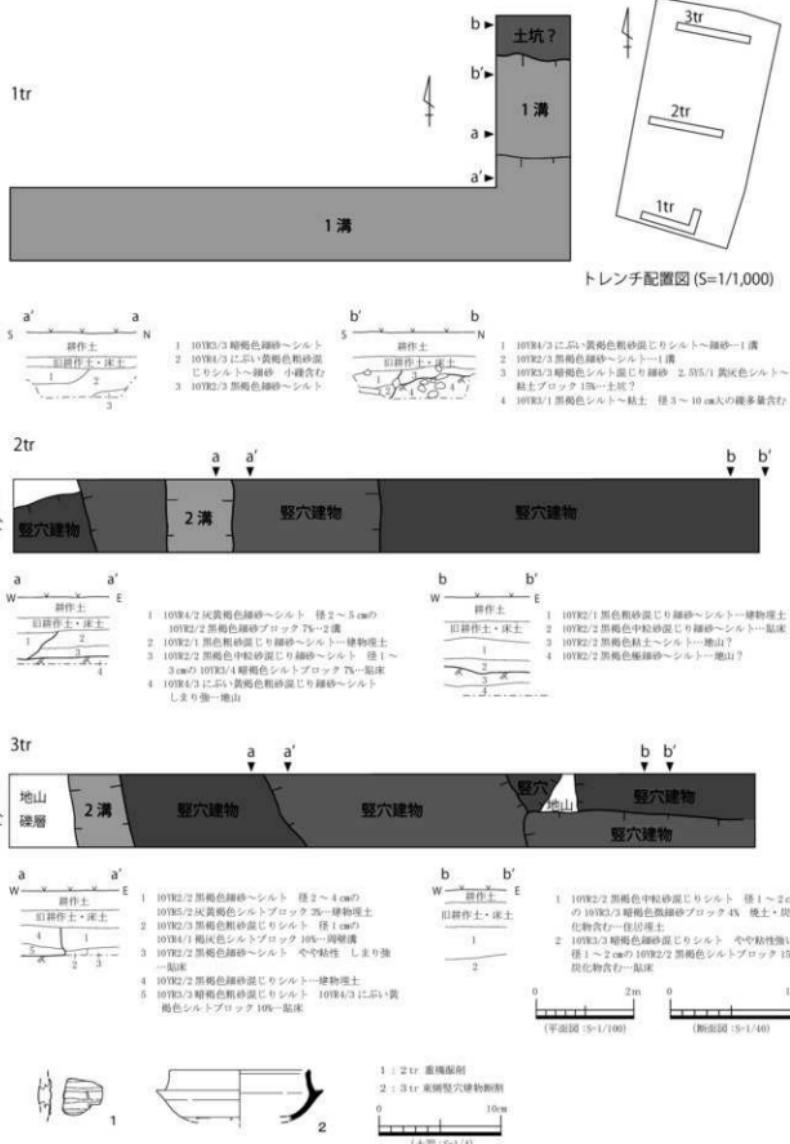
対象地の一部は、周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」の範囲内にあたる。宅地造成工事が計画されたため、土地所有者の同意を得て、計3本のトレレンチを設置して確認調査を実施した。1トレレンチでは、旧南海道跡の推定ライン上に平安時代と考えられる大規模な溝を検出した。この溝は、前述した旧南海道跡、萩前・一本木遺跡の確認調査でも検出しており、かなり大規模に施工されていたと考えられる。2・3トレレンチでは、切り合い関係をもつ堅穴建物を複数検出したほか、堅穴建物を切る南北方向の溝（2溝）を検出した。遺物は1トレレンチ1溝から黒色土器A類楕片、土師器皿片、須恵器杯身が出土した。2トレレンチから縄文土器（1）が出土した。3トレレンチの堅穴建物から須恵器杯身（2）が出土した。

6まとめ

今回の確認調査によって、複数の遺構を確認した。遺構の時期は、出土遺物から古墳時代中期～平安時代に属すると考えられる。今回の調査範囲に近接する萩前・一本木遺跡と遺構の内容や時期が同一であることから、同遺跡が調査範囲にも広がっているものと考えられる。しかし、旧南海道跡については、推定ライン上に大型の溝を確認したのみで、道路の痕跡を確認することはできなかった。対象地は「萩前・一本木遺跡」に追加登録された。対象事業実施に際し、工事立会を行い保護措置は完了した。（船築）



第8図 調査位置図 (S=1/5000)



第9図 トレンチ配置図・平面図・断面図・遺物実測図 (S=1/1,000・1/100・1/40・1/4)

りゅうまんじょうしひ

3. 龍満城跡

- 1 所 在 地 高松市香川町川東下
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 1 月 30 日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 個人住宅建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は、周知の埋蔵文化財保藏地「龍満城跡」に隣接する。調査にあたり南北トレンチ、東西トレンチを設定した。基本層序は、上から順に耕作土、床土が広く分布し、明確な地山は灰色粘土混じりの礫層である。南北トレンチ南半では地山と耕作土の中間に花崗土が厚く認められ、削平が著しいことが窺える。東西トレンチの床土以下で遺構の形成を伴う複雑な堆積状況を確認した。

東西トレンチ中央で、集石遺構と仮称する断面台形状の遺構を確認した。その中位より、今回の調査で唯一の出土遺物である土師器足金(1)が出土した。遺物の年代観から、13世紀第4四半期～14世紀前葉の形成時期が想定できる。なお、集石遺構の性格については、平面的な広がりを確認して確定する必要があるが、塚や石累の一部の可能性が想定できる。

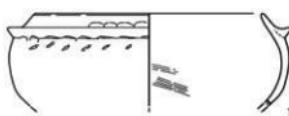
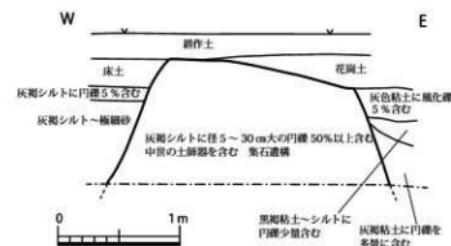
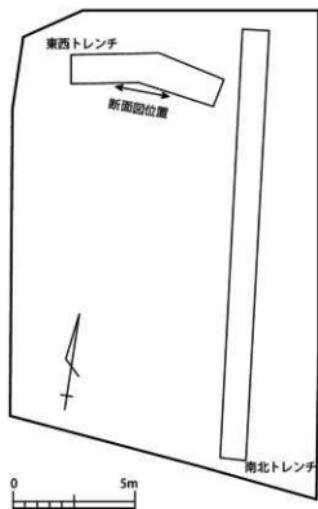
集石遺構を挟んで東西では全く異なる堆積層が確認できる。集石遺構の東側では、緩やかなレンズ状を呈して砂層・黒色シルト層が確認される。調査地東半に窪地状の地形があり、それが埋没したことが想定できる。堀等の人為的形成要因も考えられるが、確認には追加の調査が必要である。集石遺構の西側では、灰褐色シルトが厚く堆積する。均質な土質で、人為的な埋戻しとは判断しがたい。

6まとめ

対象地北半を中心にして遺構が確認され、このうち集石遺構については中世に属することが判明した。このため、「龍満城跡」に追加登録され、対象事業実施に際し工事立会を行い保護措置を完了した。(高上)



第 10 図 調査位置図 (S=1/5000)



第 11 図 トレンチ配置図・断面図・遺物実測図 (S=1/200・1/40・1/4)

かみてんじんいせき 4. 上天神遺跡

- 1 所 在 地 高松市田村町
2 調査期間 平成30年3月19日～4月5日
3 調査担当者 香川 将慶・波多野 篤・上原 ふみ
4 調査の原因 店舗建設工事
5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財附蔵地「上天神遺跡」に隣接している。今回の試掘調査は中央の水路を挟み南側を第1調査区、水路から北側を第2調査区とし、トレンチを計22本設定した。

・第1調査区

第1調査区は1～8トレンチを設定した。第1調査区の層位は2トレンチを見ると、床土直下の3-a層は灰黄褐色シルト層、3-b層はにぶい黄褐色細砂混じりシルト層である。3-a、3-b層はいずれも7～8世紀代の遺物が出土した。各トレンチの床土直下で2トレンチで確認した土層と同一あるいは類似した土層が2～3層分確認でき、いずれの層でも白鳳期～古代を中心とした土器が出土した。

遺構は1トレンチで土坑2基、図示していないが3トレンチでピット2基、8トレンチで土坑1基を検出した。8トレンチでは近世の遺物が出土しており、検出した遺構も同時期のものと考えられる。1トレンチSK01から土師器及び須恵器が出土し、5トレンチ第5層から須恵器の杯身や蓋、長頸壺が出土した(第13図-1～3)。年代は(1)の杯身と(3)の長頸壺が7世紀中頃～後半、(2)の蓋が8世紀代と考えられる。

第1調査区は現地表面から約30cm以下に土器を含む灰黄褐色にぶい黄褐色シルト層をベースに白鳳期～古代の遺構が点在することや堆積層中に同時期の遺物を密に含む。

・第2調査区

第2調査区は第1調査区より約50cm低い。9～22トレンチを設定した。9トレンチの層位は床土以下3～4層は現代の造成土である。5・6層は細砂～礫層の自然堆積層であると考えられる。また、わずかに須恵器や土師器が出土した。6層で河原石のような拳大の礫層を確認し、河川や洪水による堆積層の可能性がある。このような堆積層は第2調査区全体で見られ、9トレンチ等の東側に設置したトレンチでは1m前後の位置で礫層を確認し、22トレンチ等の西側に設置したトレンチでは礫層を30～50cmの位置で確認していることから、地形が東に向かって下がっていると考えられる。

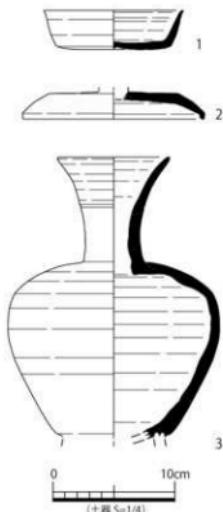
第2調査区では遺物が少量出土したもの遺構は確認できなかった。要因として、第1調査区よりも地形が低く、河川や洪水によるものと推測される層を確認したことから、こうした自然的な要因等が原因で遺構が形成されなかつた可能性がある。

6まとめ

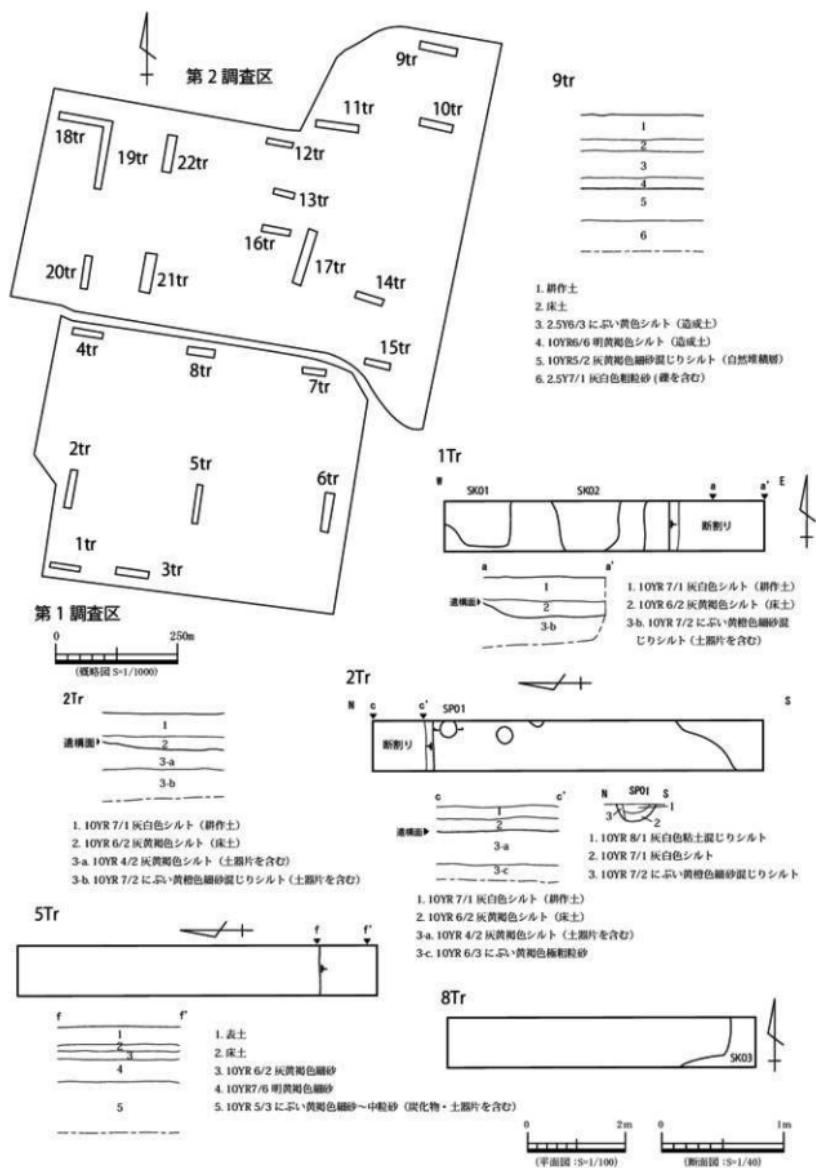
今回の試掘調査の第1調査区では、白鳳期～古代の遺構や同時期の遺物を密に包含している。一方、第2調査区では遺構が確認できなかつた。このため、第1調査区が「上天神遺跡」に追加登録され、対象事業実施に際し工事立会を行い保護措置は完了した。(香川)



第12図 調査位置図 (S=1/5000)



第13図 遺物実測図 (S=1/4)



第14図 トレーニング配置図・平面図・断面図 (S=1/1,000・1/100・1/40)

5. 中林遺跡

- 1 所 在 地 高松市林町
- 2 調査期間 平成30年3月22日～23日
- 3 調査担当者 波多野 篤
- 4 調査の原因 共同住宅建設工事
- 5 調査の概要

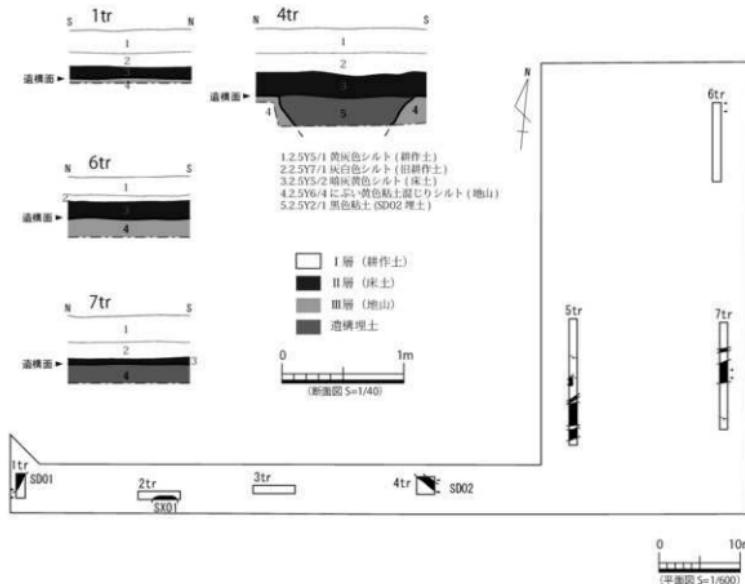
対象地は、周知の埋蔵文化財附蔵地「中林遺跡」の隣接地である。層序は、I層は現代耕作土、II層は現代底土、III層は自然堆積層（地山）で、遺構確認はIII層上面で行った。合計7本の調査区を設定し、複数の調査区で土坑や溝などの遺構を検出した。遺構の埋土や配置から、西側で検出されている中林遺跡の弥生時代から古墳時代前期の遺構と一連の遺構と考えられる。本試掘調査で、中林遺跡が東側に展開することが明らかとなった。

6.まとめ

対象地の一部は「中林遺跡」に追加登録された。対象事業実施に際し工事立会を行い保護措置は完了した。（波多野）



第15図 調査位置図 (S=1/5000)



第16図 平面図・断面図 (S=1/600・1/40)

たひかみたていしいせき きゅうなんかいどうあと
6. 多肥上立石遺跡、旧南海道跡

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
2 調査期間 平成30年4月18日～19日
3 調査担当者 高上 拓・波多野 篤
4 調査の原因 宅地造成工事
5 調査の概要

対象地の一部は、周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」の範囲内にあたる。既存の土地境界線を基にA～F区に区分しトレントを設定した。対象地の東半において耕作土直下で地山である明黄褐色シルト層を基盤として遺構が形成された状況を確認した。遺構密度はやや密で大型遺構が多いが、遺物量は希薄である。西半では北西側に向かって急激に旧地形が下降しており、低地部には円礫を主体とした河川の氾濫堆積層が確認された。遺構は確認されなかった。以上から、調査地の東側に微高地が存在し、西側には低地が広がる状況を確認した。

A-1トレントは「旧南海道跡」に直交して設定した。結果、東西方向に延伸する溝を2条検出した。現地での略測だが、延伸方向は概ねN-110°～Eで、高松平野における南海道の基準方位と合致する。検出した溝は小規模で溝間の間隔も狭く、路面に相当する面も確認できていないため、南海道そのものを検出した可能性は低いが、南海道に関連した地割の痕跡と推測できる。遺物は出土しておらず、埋没時期は不明である。南側の土坑からは須恵器壺の体部片が出土しているが、堆積を見ると土坑の埋没後、間層の堆積を挟んで溝が開削されていることから、土坑の埋没よりも溝の開削が後出する。土坑は埋土と遺物から、古墳時代後期～飛鳥時代にあたると考えられるため、溝はこれよりも新しく位置づけられる。

B区ではピットと不明遺構を検出した。B-2トレントの大型遺構の上面からは京・信楽系陶器碗が出土しており、18世紀以降の埋没が想定できる。その他の遺構埋土は後述する古墳時代～奈良時代の遺物を含む遺構と近似する。

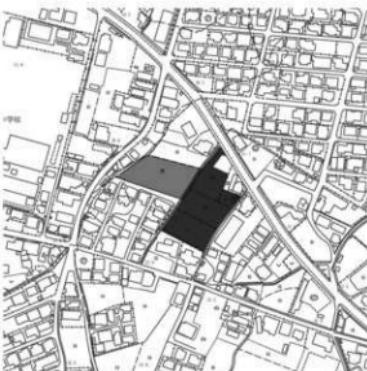
C区では、南側の遺構面が段状に削平されており、遺構・遺物が希薄である。耕作地を整備する際に南半を削平し、平坦地を確保したため遺構面の上部が削平された可能性が高い。北半では、遺構・遺物が確認され、特にC-2トレントでは遺構に伴い、多量の須恵器が検出された。底部が平底に近く、扁平な須恵器短頸壺の形態から、古墳時代後期～飛鳥時代にかけての埋没時期が想定できる。埋土は灰褐～暗褐色シルトである。

F区でも、地山面を遺構面とした遺構を多数検出した。遺物が僅少であるが、遺構埋土はC区とほぼ共通しており、大半を古墳時代後期～飛鳥時代に位置付けるのが妥当であろう。

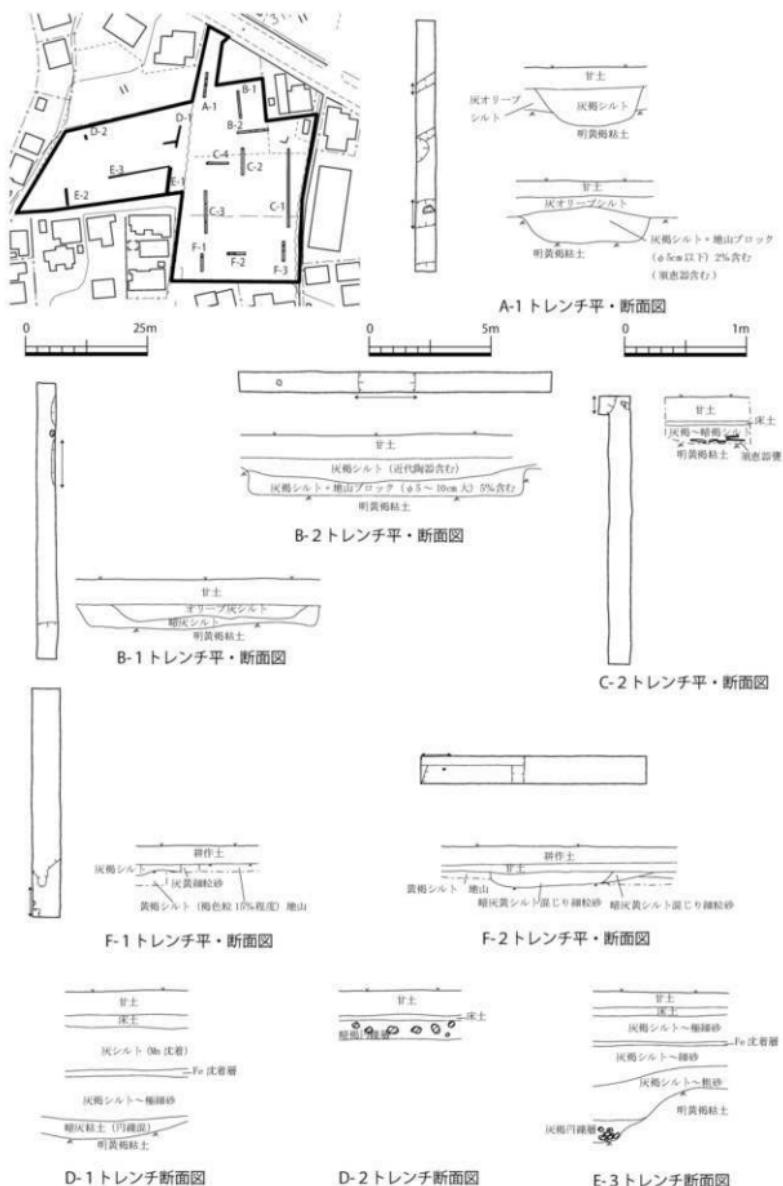
D・E区では、東端に明黄褐色の地山が検出されるが、北西側に向かって急激に地形が下降し、低地部分では風化した円礫層が厚く堆積する。礫の粒径は比較的大型で、流れの速い河川の氾濫により堆積した堆積層であると考えられることから、氾濫原であり土地利用が極めて低調であったと考えられる。対象地の西側の地割も蛇行し乱れていることも、こうした推定の傍証となる。東端は微高地の縁辺にあたるが、遺構は確認できなかった。なお、原位置からは遊離しているが、耕作土直下の重機掘削中に円筒埴輪片が1点出土した。

6まとめ

対象地のうち、別途図示した範囲について埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。検出した遺構の性格及び広がりから、「旧南海道跡」とするのは適当ではないため、字名から「多肥上立石遺跡」として新規の周知の埋蔵文化財包蔵地に登録された。対象事業実施に際し工事立会を行い保護措置を完了した。(高上)



第17図 調査位置図 (S=1/5000)



第18図 トレンチ配置図・平面図・断面図 ($S=1/1,000 \cdot 1/200 \cdot 1/40$)

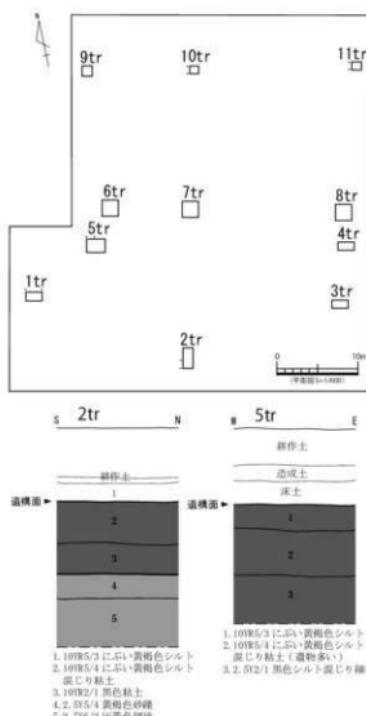
7. 浴・長池遺跡

- 1 所 在 地 高松市林町
- 2 調査期間 平成30年4月19日～20日
- 3 調査担当者 波多野 篤・三輪 望
- 4 調査の原因 店舗建設工事
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「浴・長池遺跡」の北側隣接地にある。層序は、I層は現代耕作土・造成土、II層は河川堆積層である。II層は細別が可能で、浴・長池遺跡で検出されている自然流路の北側の続きと考えられる。II層上面で遺構検出を行ったが、遺構は認められなかった。ただし、事業地西側のみに認められたII層の最上位に堆積する黒色系統の粘土層から、弥生時代中期と考えられる土器片が多数出土した。

6まとめ

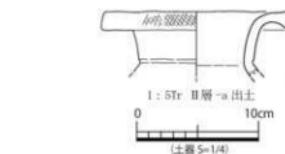
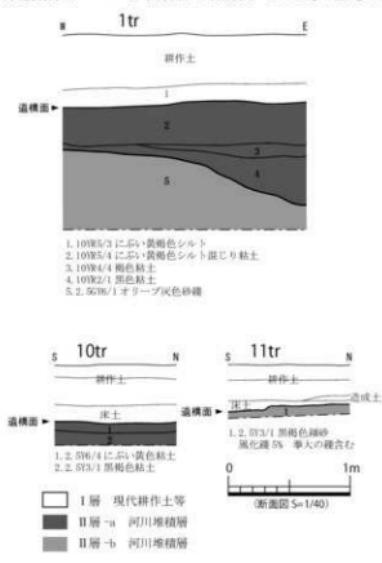
遺構は認められなかったが、事業地西側の自然流路最上層は多くの弥生土器を包含していることから、対象地の一部が「浴・長池遺跡」に追加登録された。現在、保護措置について事業者と協議中である。(波多野)



第20図 平面図・断面図・遺物実測図 (S=1/600・1/40・1/4)



第19図 調査位置図 (S=1/5000)



8. 峰友遺跡

- 1 所 在 地 高松市川島東町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 4 月 26 日～27 日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、一部が高松市の設定した「出羽城跡（出羽砦跡）参考地」に該当する。調査にあたっては既存の土地境界を基に A～E 区に分割し、トレンチを設定した。

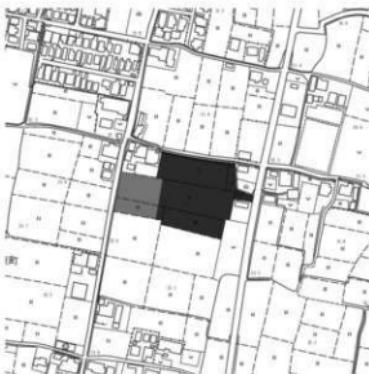
調査の結果、対象範囲の西端を除くほぼ全域に、黒色の遺物包含層が広がることを確認した。遺物の包含量は比較的少なく、細片ばかりでローリングによる摩滅が著しい。平底の土器片を含み、弥生時代の遺物包含層である。南側に近接する北山下遺跡の調査でも同様の堆積層を確認しており、弥生時代後期後葉の遺物を主体とする包含層の可能性が高い。この包含層を基盤層とする遺構が、B 区の一部と C～E 区において確認された。埋土の多くは褐灰～灰白シルトであるが、一部黒色シルトや青灰シルトなど複数の遺構埋土が認められ、同一遺構面上に複数時期の遺構が形成された可能性が考えられる。遺構検出面は現地表面から 0.3～0.4m の深度である。遺物は細片がほとんどであるが、土器足器等を含み、近世以降の遺物を全く含まないことから、遺構の大半が中世以前に形成されたものと判断できる。

地形と遺構の形成関係については、多数実施した断面調査のいずれの地点でも、砂層と粘土層の互層堆積が水平基準で広く検出でき、なおかつそれが深深度まで及ぶことを確認した。氾濫による土砂の流入を何度も繰り返しつつ、弥生時代後期に比較的安定化し、対象地の東半については中世以降に遺構が形成された場所であると判断できる。西側については、現地形も相対的に低地であり、堆積状況からも西側に下降する堆積状況が確認できる。低地では遺構形成が低調であったものと判断できる。

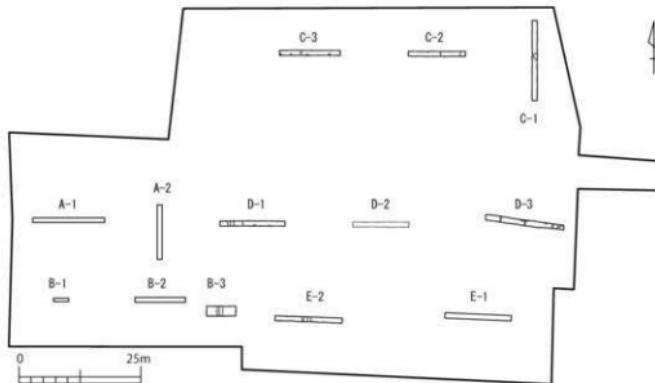
検出した遺構は溝やピットが主体である。北東方向に向かって遺構密度が高い。特徴的な遺構としては、D-1・B-3 トレンチで検出した畦畔状の遺構がある。南北方向に延伸し、連続する遺構の可能性が高い。

6 まとめ

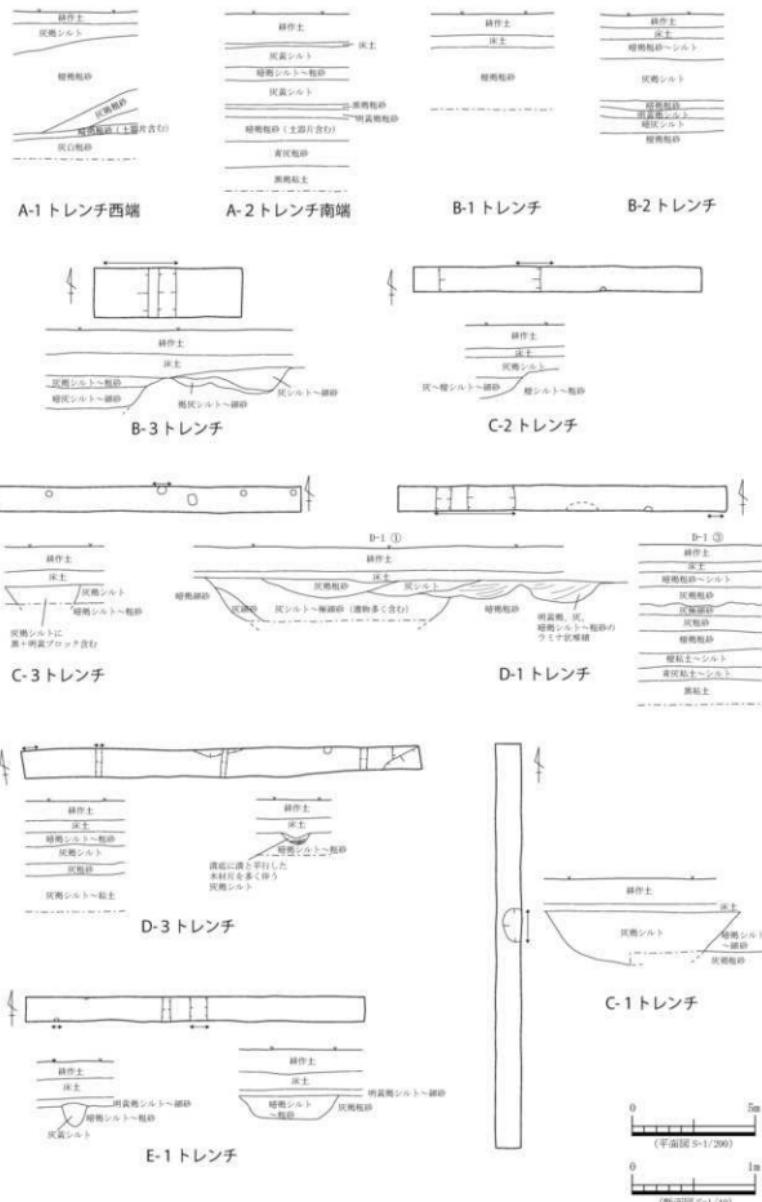
中世の遺構は東半を中心に確認でき、東側が周知の埋蔵文化財包蔵地「峰友遺跡」として新規登録された。対象事業実施に際し工事立会を行い保護措置は完了した。（高上）



第 21 図 調査位置図 (S=1/5000)



第 22 図 トレンチ配置図 (S=1/1,000)



第23図 トレンチ平面・断面図 ($S=1/200 \cdot 1/40$)

9. 上西原遺跡

- 1 所 在 地 高松市木太町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 5 月 1 日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 店舗建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は、周知の埋蔵文化財古墳「上西原遺跡」に隣接する。隣接地の調査で確認された水田の畔の延伸方向に直交することを意図し、トレンチ 2 本を設定した。

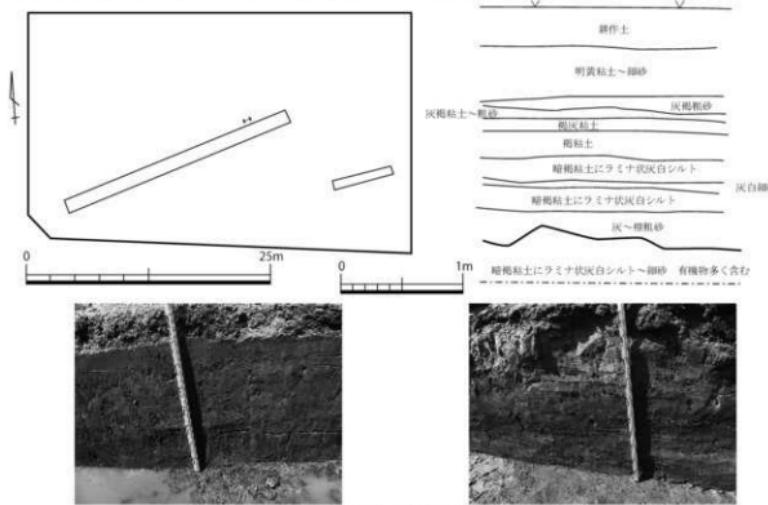
調査の結果、調査地の東側に向かって標高が下降する水田面を複数確認することができた。特に調査地の東側では、洪水砂によって被覆された水田面と考えられる堆積層が複数回形成されたことが観察できる。畦畔と水田面との対応関係については、明らかにしない部分が多くあったが、地表面から 0.3 ~ 1.2m ほどの深度において、少なくとも 4 面以上の水田面が形成されたことが推測される。特に検出した最下面については、厚い洪水砂で畦畔が被覆されていた。最も遺存状況が良好であった箇所においては、高さ 10 cm 程度の高低差を残す畦畔を 2 ヶ所確認しており、両者の水平距離は 4.0m である。これは、隣接地の発掘調査で検出された小区画水田の畦畔間隔に近似する数値であり、小区画水田が当地まで連続した可能性が高いと考えられる。水田の形成時期を示す遺物は確認されていないが、水田面が連続することから、長期間継続して水田として利用されつつ、定期的に氾濫を被り続ける低地であったことがうかがえる。なお、調査地の南側では、西側に向かって下降する厚い粗砂層が認められ、旧河道や水路の可能性のある堆積が確認されており、これが埋没したのちに水田として利用され始めている。遺物は伴わず、時期は不明である。

6まとめ

対象地は、弥生時代の小区画水田を始めとして、長期間水田として土地利用がなされたことが判明した。連続する遺跡と考えられることから、「上西原遺跡」に追加登録された。(高上)



第24図 調査位置図 (S=1/5000)



第25図 トレンチ配置図・断面図 (S=1/500・1/40)

10. 新田本村遺跡

- 1 所 在 地 高松市新田町
- 2 調査期間 平成30年7月11日～9月18日
- 3 調査担当者 香川 将慶・波多野 篤
- 4 調査の原因 店舗兼住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財公表地「新田本村遺跡」に隣接する。今回の調査では計4本のトレンチを設定した。層序は5～6層分の堆積層を確認し、各トレンチとともに同様の堆積層である。1層は耕作土、2層は床土である。3層は褐色のシルト混じり中粒砂、4層は黒褐色のシルト混じり中粒砂である。須恵器や土師器が出土するが極わずかである。5層は黒色のシルト質中粒砂である。須恵器の杯や土師器の瓶や瓦類等を多量に含むことから古代の遺物包含層と考えられ、約20cm堆積している(第27図-1～4)。遺物包含層は1～4トレンチの全面で確認した。6層は灰黄褐色中粒砂混じりシルトで地山と考えられる。

1～3トレンチにおいて、6層上面でピット等の遺構を検出した。1トレンチではピット2基、2・3トレンチでもピット各3基を検出した。SP1は直径約40cm、深さ25cmの規模である。SP6は一辺70cm以上になると推測される方形のピットである。

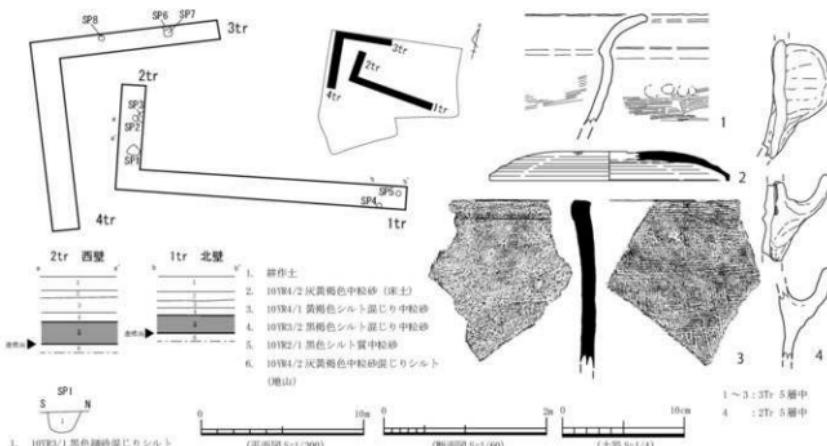
今回の試掘調査で古代以前の遺構・遺物を調査区全面で検出した。5層は古代の遺物を多量に含み、遺物包含層と考えられ、6層で遺構を検出している。遺構の年代は不明だが、5層が古代の遺物包含層であることから古代以前の遺構と推測される。新田本村遺跡は港湾等の官衙的機能を有した遺跡と評価されており、今回の調査も同時期の遺構・遺物を確認したことから、北側に遺跡が広がると考えられる。

6まとめ

対象地は、「新田本村遺跡」に追加登録された。今後、開発工事が実施される際は適切な保護措置が必要である。(香川)



第26図 調査位置図 (S=1/5000)



第27図 トレンチ配置図・平面図・断面図 (S=1/200・1/40・1/4)

じょうりあと 11. 条里跡

- 1 所 在 地 高松市香南町横井
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 7 月 30 日～8 月 1 日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶
- 4 調 査 の 原 因 工場建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」の範囲内にあたる。層序は、1 層は花崗土、2 層以下は黄褐色～にぶい黄褐色中粒砂等が堆積している。層位は各トレンチで差異がみられるが、主な堆積層として中粒砂が占めることや、西側に河川があり地割が乱れていますことから河川堆積であると推測され、遺構が形成されなかつた可能性がある。

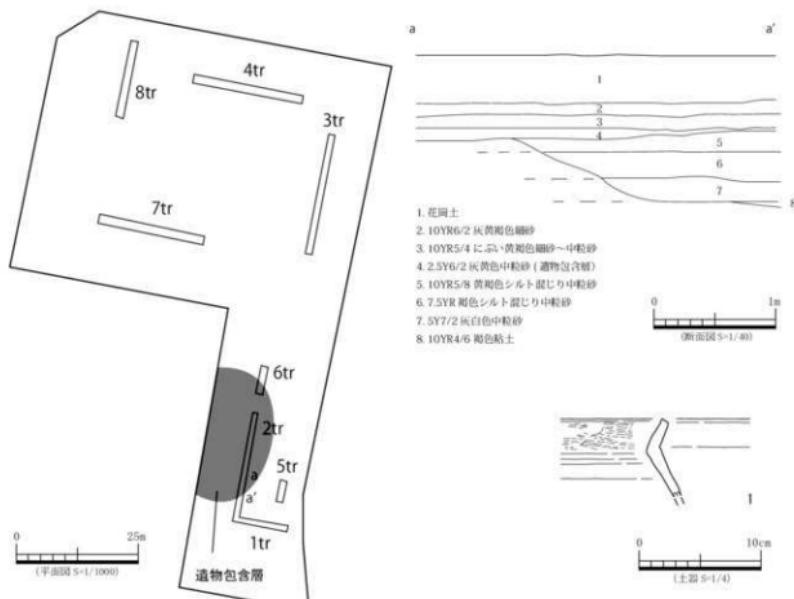
調査の結果、対象地の大半で遺構・遺物は確認できなかつたが、南側で古墳時代～平安時代頃の須恵器や土師器を含む遺物包含層を確認した。

6 まとめ

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、今後も開発工事が実施される際は適切な保護措置が必要である。(香川)



第28図 調査位置図 (S=1/5000)



第29図 トレンチ配置図・断面図・遺物実測図 (S=1/1000・1/40・1/4)

12. 新名氏屋敷跡

- 1 所 在 地 高松市国分寺町新名
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 10 月 15 日～16 日
- 3 調 査 担 当 者 梶原 慎司・森原 奈々
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「新名氏屋敷跡」の範囲内にあたる。層序は、I 層は現代耕作土・床土、II 層は黄褐色～黄色シルト層、III 層は明黄褐色細砂層（小礫～大礫含む）で、遺構面は II 層上面である。対象地の内、西側部分は II 層が削平され I 層の直下に III 層があり、III 層上面で遺構検出を行った。

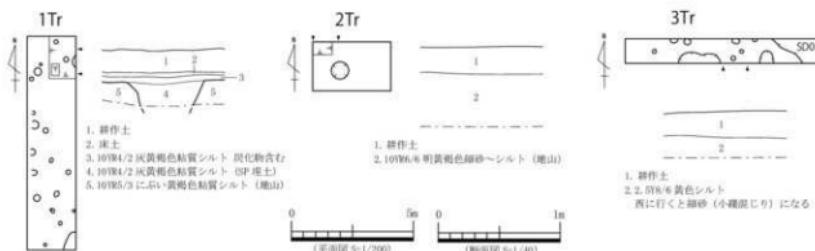
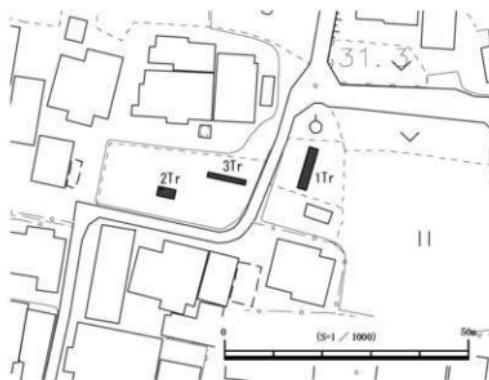
3 本のトレチの内、1・3 トレチで古代～中世のピット多数と溝 1 条を、2 トレチでは近世の土坑を検出した。一部のピット及び溝からは土師器片が出土した。

6 まとめ

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、今後も開発工事が実施される際は適切な保護措置が必要である。（梶原）



第 30 図 調査地位置図 (S=1/5000)



第 31 図 トレチ配置図・平面図・断面図 (S=1/1000・1/200・1/40)

なかばやしい。さく 13. 中林遺跡

- 1 所 在 地 高松市林町
- 2 調査期間 平成30年10月30日～31日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周囲の埋蔵文化財保藏地「空港跡地遺跡・上林遺跡」に隣接する。試掘に際してトレント12本を設定した。

調査の結果、基本層序は対象地全域で共通することが確認できた。上から順に、耕作土下に古代の遺物を包含した黒褐色粘土層が広がり、その下層に灰黄色粘土が堆積している。この灰黄色粘土を基盤層とした遺構を限られた範囲で確認した。遺構の検出状況を中心に以下に整理する。

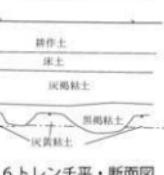
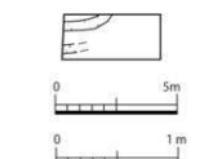
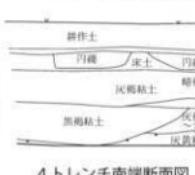
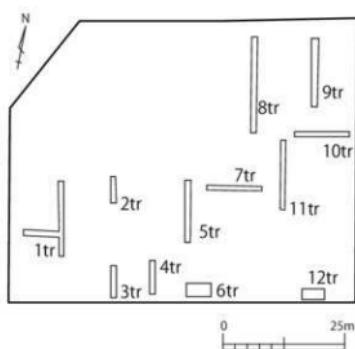
遺構が検出されたのは、対象地の北東隅(9トレント)と、南端中央部(4・6トレント)に限定される。いずれも遺構埋土は黒褐色系粘土である。検出された遺構は、溝が1条と、不明遺構が2基である。遺構出土遺物は皆無であるが、遺構埋土を被覆する灰褐色粘土層からは、細片であるが平底で丸みを帯びた底部須恵器杯が出土しており、11世紀中葉以前の時期が想定される。詳細な時期比定は困難であるが、それ以外に新しい遺物を含まず、中世以前に包含層が形成されたことは確実であるため、検出した遺構は中世以前の遺構であると考えられる。

6まとめ

対象地は遺構・遺物ともに極めて疎であるが、一部で中世以前の遺構が確認されたため、その範囲が「中林遺跡」に追加登録された。対象事業実施に際し、工事立会を行い保護措置を完了した。(高上)



第32図 調査位置図 (S=1/5000)



第33図 トレント配置図・平面図・断面図 (S=1/1,000・1/200・1/40)

かわしまごういせき 14. 川島郷遺跡

- 1 所 在 地 高松市川島東町
- 2 調 査 期 間 平成 29 年 12 月 7 日
- 3 調 査 担 当 者 波多野 篤
- 4 調 査 の 原 因 幼保一体施設建設に伴う造成及び擁壁
- 5 調 査 の 概 要 工事

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「川島郷遺跡」に隣接する。調査では 3 本のトレンチを設定した。調査の結果、対象地で主に中世の遺構・遺物が認められた。

6 調査後の措置

調査後対象地は「川島郷遺跡」の範囲に追加登録され、平成 30 年度に発掘調査を行い保護措置を完了した。調査成果は報告書に掲載する予定である。(波多野)



第 34 図 調査地位置図 (S=1/5000)

ひがしつば ちく 15. 東井坪地区

- 1 所 在 地 高松市中間町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 1 月 31 日～2 月 5 日
- 3 調 査 担 当 者 梶原 慎司・益崎 卓巳
- 4 調 査 の 原 因 貸店舗用地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「川原遺跡」に隣接する。調査では 9 本のトレンチを設定した。調査の結果、対象地で流路が 2 本認められた。流路から遺物は出土せず、時期は不明である。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第 35 図 調査地位置図 (S=1/5000)

まつのうちやき 16. 松ノ内遺跡

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 2 月 21 日～22 日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶・高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 運動場造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は運動場造成工事に伴い事業者と協議し、試掘調査を実施した。その結果、事業地の大半で埋蔵文化財の包蔵状況を確認することができ、中世以前の住居跡や土坑等の遺構、土師器や須恵器等の遺物が出土した。

6 調査後の措置

対象地の一部は周知の埋蔵文化財包蔵地「松ノ内遺跡」として登録された。平成 30 年度に発掘調査を行い保護措置を完了した。調査成果は報告書に掲載する予定である。(香川)



第 36 図 調査地位置図 (S=1/5000)

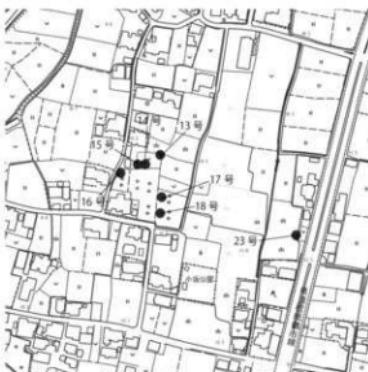
いいだにし どうづか 17. 飯田西 13・14・17・18・23 号塚

- 1 所 在 地 高松市飯田町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 3月 1日～3月 13 日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地内には周知の埋蔵文化財包蔵地「飯田西 13・14・17・18・23 号塚」が所在する。調査の結果、中世以降に形成された塚で、墳丘の大半は近世以降に盛り上げられた可能性が高いことが判明した。

6 調査後の措置

確認調査後、平成 30 年度に発掘調査を行い保護措置を完了した。調査成果は報告書（2019 年度刊行予定）に掲載する。（高上）



第 37 図 調査位置図 (S=1/5000)

いけのうらいせき II 18. 池の内遺跡 II

- 1 所 在 地 高松市多肥下町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 4月 6日～12 日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓・香川 将慶
- 4 調 査 の 原 因 個人住宅建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「池の内遺跡 II」内に位置する。調査の結果、中世以前の遺構を検出したが、遺構密度は疎である。対象地は低湿地にあたり、近世以降の擾乱が著しい。

6 調査後の措置

周知の埋蔵文化財包蔵地内であるが、試掘調査で対象事業に係る保護措置は完了した。（高上）



第 38 図 調査位置図 (S=1/5000)

だいくまち わく ときやまち もく 19. 大工町地区・磨屋町地区

- 1 所 在 地 高松市大工町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 4月 9日～10 日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶・上原 ふみ
- 4 調 査 の 原 因 大工町・磨屋町地区市街地再開発事業
- 5 調 査 の 概 要

対象地は参考地「丸亀町遺跡」内に位置する。調査では 2 本のトレンチを設定した。調査の結果、高松城の城下町であることから江戸時代の陶磁器や瓦類といった遺物や土坑等の遺構を確認したが、中世以前のものは確認できなかった。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（香川）



第 39 図 調査位置図 (S=1/5000)

21. 宮西・一角遺跡

- 1 所 在 地 高松市林町
2 調 査 期 間 平成 30 年 4 月 17 日
3 調 査 担 当 者 波多野 篤・三輪 望
4 調 査 の 原 因 共同住宅建設工事
5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「宮西・一角遺跡」に隣接する。事業地内に 5 本のトレンチを設定した。調査の結果、弥生時代及び奈良時代以降に形成された遺構・遺物が認められた。

6 調査後の措置

対象地は「宮西・一角遺跡」に追加登録され、平成 30 年度に発掘調査及び工事立会を行い保護措置を完了した。調査成果は報告書（2019 年度刊行予定）に掲載する。（波多野）

22. 須川地区

- 1 所 在 地 高松市太田下町
2 調 査 期 間 平成 30 年 4 月 16 日～23 日
3 調 査 担 当 者 香川 将慶・森原 奈々
4 調 査 の 原 因 ことでん新駅前駅前広場整備工事
5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「太田下・須川遺跡」に隣接する。調査では 3 本のトレンチを設定した。調査の結果、須恵器や石器等が出土したが極めて少量であり、中世以前の遺構は確認できなかった。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（香川）



第 41 図 調査位置図 (S=1/5000)



第 42 図 調査位置図 (S=1/5000)

20. 宮尻地区

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
2 調 査 期 間 平成 30 年 4 月 27 日～5 月 1 日、同 10 月 31 日～11 月 2 日
3 調 査 担 当 者 波多野 篤・森原 奈々・大迫 敏美
4 調 査 の 原 因 温泉施設建設工事
5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥宮尻遺跡」に隣接する。調査は 2 回に分けて実施し、合計 24 本のトレンチを設定した。調査の結果、対象地全域で自然流路及び浅い谷状地形を検出した。対象地は、微高地にある集落域に対しての低地部にあたるものと考えられる。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（波多野）



第 40 図 調査位置図 (S=1/5000)

23. 内町地区

- 1 所 在 地 高松市内町
2 調 査 期 間 平成 30 年 6 月 4 日～7 日
3 調 査 担 当 者 香川 将慶・中西 克也
4 調 査 の 原 因 共同住宅建設工事
5 調 査 の 概 要

対象地は参考地「高松城跡」内に位置する。調査では 4 本のトレーナーを設定した。4 本のトレーナーとも建物基礎が残存しており、それ以下の調査を行うことができなかつた。

6 調査後の措置

今回の試掘調査では遺構・遺物の包蔵状況を確認できず、周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(香川)



第 43 図 調査位置図 (S=1/5000)

24. 窪田地区

- 1 所 在 地 高松市屋島中町
2 調 査 期 間 平成 30 年 6 月 28 日～7 月 3 日
3 調 査 担 当 者 高上 拓
4 調 査 の 原 因 屋島コミュニティセンター建替工事
5 調 査 の 概 要

対象地は史跡・天然記念物「屋島」内に位置する。調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況は確認できなかつた。対象地は、丘陵裾の低地にあたり、低湿地性の堆積層が確認され、1 点のみであるが、近世の磁器片が出土した。

6 調査後の措置

対象地は史跡・天然記念物「屋島」であるが、明確な埋蔵文化財の包蔵状況は確認できなかつた。引き続き適切な保護措置が必要である。(高上)



第 44 図 調査位置図 (S=1/5000)

25. 東山崎・水田遺跡

- 1 所 在 地 高松市東山崎町
2 調 査 期 間 平成 30 年 7 月 9 日～10 日
3 調 査 担 当 者 波多野 篤・香川 将慶
4 調 査 の 原 因 共同住宅建設工事
5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東山崎・水田遺跡」に隣接する。対象地に 2 本のトレーナーを設定した。調査の結果、中世の遺構・遺物を検出した。遺構の配置等から、隣接する東山崎・水田遺跡に伴う遺構と考えられる。

6 調査後の措置

対象地は「東山崎・水田遺跡」に追加登録され、発掘調査及び工事立会を行い保護措置は完了した。調査成果は報告書(2019年度刊行予定)に掲載する。(波多野)



第 45 図 調査位置図 (S=1/5000)

26. 日暮地区

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
2 調 査 期 間 平成 30 年 7 月 17 日～18 日
3 調 査 担 当 者 香川 将慶・三輪 望
4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「日暮・松林遺跡」に隣接する。調査では 3 本のトレンチを設定した。調査の結果、多数の粘土探掘坑を検出した。周辺の調査成果や陶磁器片が出土したことから近世以降のものと考えられる。中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。
(香川)



第 46 図 調査位置図 (S=1/5000)

27. 平塚地区

- 1 所 在 地 高松市木太町
2 調 査 期 間 平成 30 年 7 月 19 日
3 調 査 担 当 者 香川 将慶・三輪 望
4 調 査 の 原 因 不動産鑑定
5 調 査 の 概 要

対象地は参考地「弘福寺領田団比定地」内に位置する。調査では 2 本のトレンチを設定した。調査の結果、花崗土の造成土や後世の擾乱を確認し、遺構・遺物は確認できなかった。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。
(香川)



第 47 図 調査位置図 (S=1/5000)

28. 御厩池遺跡

- 1 所 在 地 高松市御厩町
2 調 査 期 間 平成 30 年 7 月 23 日
3 調 査 担 当 者 梶原 慎司
4 調 査 の 原 因 メガソーラー設置に伴う造成工事
5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「御厩池遺跡」内に位置する。調査では 2 本のトレンチを設定した。いずれのトレンチでも表土下約 3m まで造成土を確認した。聞き取りでは、対象地は池を拡張した際に盛土したことである。

6 調査後の措置

埋蔵文化財包蔵地内であるが、遺構・遺物は確認できなかった。対象事業実施に際し、工事立会を行い保護措置を完了した。(梶原)



第 48 図 調査位置図 (S=1/5000)

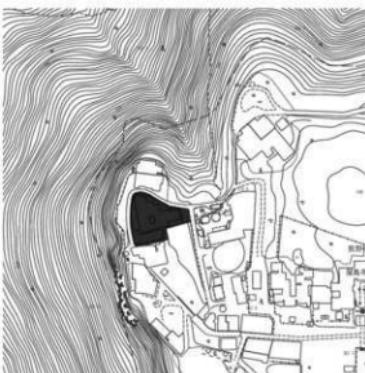
29. 屋島山上南嶺地区

- 1 所 在 地 高松市屋島東町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 7 月 24 日～25 日
- 3 調 査 担 当 者 梶原 慎司
- 4 調 査 の 原 因 屋島山上拠点施設建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は史跡・天然記念物「屋島」内に位置する。調査では 5 本のトレンチを設定した。調査の結果、赤褐色シルト及び黄褐色シルト層の地山が認められた。地上面で、遺構・遺物は認められなかった。

6 調査後の措置

史跡内であるが、遺構・遺物の包蔵状況は確認できなかった。引き続き適切な保護措置が必要である。(梶原)



第 49 図 調査地位置図 (S=1/5000)

30. 半田地区

- 1 所 在 地 高松市飯田町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 9 月 3 日～5 日
- 3 調 査 担 当 者 梶原 慎司
- 4 調 査 の 原 因 無線中継所建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「飯田西 12 号塚」に隣接する。調査では 3 本のトレンチを設定した。調査の結果、灰白色シルト層の地山が認められた。地上面で、遺構・遺物は認められなかった。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第 50 図 調査地位置図 (S=1/5000)

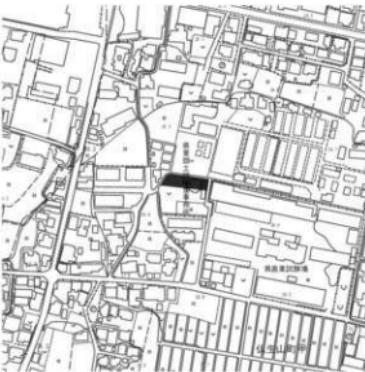
31. 旧南海道跡

- 1 所 在 地 高松市仏生山町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 10 月 15 日
- 3 調 査 担 当 者 梶原 慎司・森原 奈々
- 4 調 査 の 原 因 共同住宅建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地の一部に周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」が所在し、「萩前・一本木遺跡」に隣接する。調査では逆 L 字型の 2 本のトレンチを設定した。調査の結果、対象地で黄褐色シルト層を基盤とする遺構面を確認したが、遺構・遺物は検出できなかった。

6 調査後の措置

埋蔵文化財包蔵地内であるが、遺構・遺物の包蔵状況は確認できなかった。引き続き適切な保護措置が必要である。(森原)



第 51 図 調査地位置図 (S=1/5000)

32. 平塚地区

- 1 所 在 地 高松市木太町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 10 月 16 日
- 3 調 査 担 当 者 梶原 慎司・森原 奈々
- 4 調 査 の 原 因 共同住宅建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は参考地「弘福寺領田団比定地」内に位置する。調査では 2 本のトレンチを設定した。調査の結果、対象地の西側ではオリーブ褐色細砂層の地山が認められた。地山上面で溝を 2 条検出したが、遺物が出土しなかったため時期は不明である。東側では 1m 以上花崗岩によって造成されており、遺構面は削平されている可能性が高い。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。
(梶原)



第 52 図 調査位置図 (S=1/5000)

33. 道下地区

- 1 所 在 地 高松市円座町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 11 月 21 日～22 日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶
- 4 調 査 の 原 因 校舎建設工事
- 5 調 査 の 概 要

校舎建設工事に伴い、事業者と協議を行い、対象地の試掘調査を実施した。調査ではトレンチを 2 本設定した。調査の結果、遺物が少量出土したが、遺構は検出できなかった。要因として、当該地に近接して河川が流れており、氾濫を受けた堆積層を確認していることから生活が営まれなかつた可能性がある。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。
(香川)



第 53 図 調査位置図 (S=1/5000)

34. 万灯地区

- 1 所 在 地 高松市国分寺町新居
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 11 月 27 日
- 3 調 査 担 当 者 梶原 慎司
- 4 調 査 の 原 因 仮設校舎建設工事
- 5 調 査 の 概 要

仮設校舎建設工事に伴い、事業者と協議を行い対象地の試掘調査を実施した。調査ではトレンチを 1 本設定した。調査の結果、褐灰色細粒砂層又は灰白色シルト層の地山が認められた。地山上面で遺構をピット 1 基を検出したが、遺物が出土しなかつたため時期は不明である。

6 調査後の措置

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。
(梶原)



第 54 図 調査位置図 (S=1/5000)

第2章 重要遺跡確認調査(平成29年12月～30年11月)

35. 勝賀城跡

- 1 所 在 地 高松市鬼無町是竹
2 調 査 期 間 平成29年12月4日～平成30年2月1日
3 調 査 担 当 者 梶原 慎司
4 調 査 の 原 因 重要遺跡確認調査
5 調 査 の 概 要

高松市では、勝賀山山頂に所在する勝賀城跡を国史跡に指定することを目的に平成28年度から調査を開始した。調査2年目となる平成29年度は、発掘調査と測量調査及び主郭周辺の伐採を実施した。

発掘調査

喰い違い虎口部分の調査を行った。門の礎石の有無を確認するため土星頂部と裾部にトレンチを設定した。土星頂部及び裾部で遺構は検出されなかった。土星裾部には安山岩の塊石が点在していることが確認され、土留め又は土星構築の際に使用された石材と考えられる。土星の断面をとるため一部断割りを行い、土星の土層図化を行った。

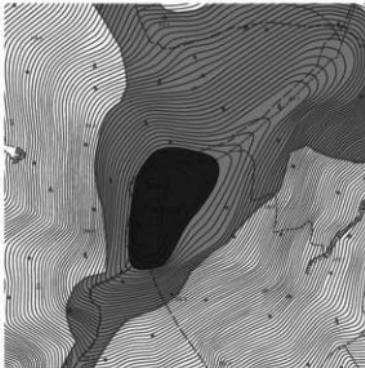
主郭北側曲輪では、造成方法を明らかにするため幅50cmのトレンチを設定した。トレンチのほとんどの箇所では、表土直下で地山が現れたため削平して曲輪を造成したことが明らかになった。一部塊石が並んでいる箇所では盛土部分があり、塊石が土留めとして使用されていることも判明した。

測量調査・伐採

平成28年度から引き続き主郭北側曲輪の測量調査を行った。主郭北側曲輪の外で堅土塁があることが判明した。

6まとめ

本年度は、虎口の構造及び曲輪の造成方法を明らかにするためトレンチを設定し発掘調査を行った。虎口については来年度も引き続き調査を行う予定である。(梶原)



第55図 調査地位置図 (S=1/5000)



写真1 嘰い違い虎口 トレンチ完掘状況



写真2 主郭北側曲輪 トレンチ完掘状況



写真3 堅土塁



写真4 主郭北側曲輪トレンチ 盛土部分

36. 今岡古墳

- 1 所 在 地 高松市鬼無町
- 2 調査期間 平成30年3月12日～20日
- 3 調査担当者 波多野 篤・香川 将慶
- 4 調査の原因 重要遺跡確認調査
- 5 調査の概要

県指定史跡の今岡古墳について、古墳の正確な範囲を把握し適切に保護するため、範囲確認のための調査を実施した。

平成29年度は後円部に2つの調査区を設定し、トレントチ1を香川県埋蔵文化財センター、トレントチ2を本市が担当することとなった。

トレントチ2は、地形の傾斜が変わる後円部北側に設定した約4m²の調査区である。トレントチ2内では盛土と見られる土層は認められず、上方からの流土と考えられる土層と、その下位に地山が堆積していることを確認した。

トレントチ2では埴堀は認められなかったが、標高約58.46m付近で幅約0.8mの平坦面を確認した。また、平坦面上には拳大の礫が集中して認められた。トレントチ2からは古墳に伴う遺物が出土しておらず、この平坦面も古墳に伴う地形の可能性が推定できる。トレントチ2の平坦内から、円筒埴輪の破片が出土した。

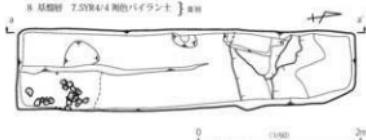
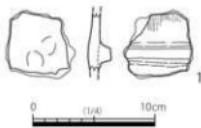
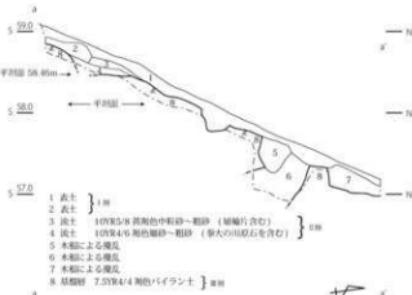
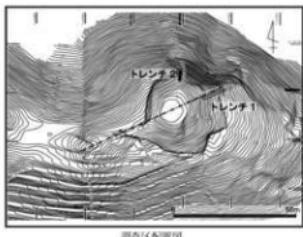
今回の調査結果からは、埴丘内にトレントチ2を設定したと判断でき、埴丘はさらに外側に続くことが明らかとなった。

6まとめ

トレントチ2で後円部の埴堀を検出することはできなかったが、平坦面を検出するなど後円部の埴丘に関わる重要な知見を得ることができた。なお、トレントチ1でも平坦面を確認したものの埴堀は検出できなかった。詳しい調査成果は香川県文化財年報（平成29年度）に掲載されている。（波多野）



第56図 調査位置図 (S=1/5000)



第57図 トレントチ配置図・平面図・断面図・遺物実測図 (S=1/2000・1/60・1/4)

37. 浅野小学校所在石棺

- 1 所 在 地 高松市香川町浅野
- 2 調 査 期 間 平成 29 年 8 月 17 日～21 日
平成 30 年 3 月 30 日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓・大久保徹也（徳島文理大学文学部）
- 4 調 査 の 原 因 重要遺跡確認調査
- 5 調 査 の 概 要 徳島文理大学との連携により、市内に所在する剝抜式石棺の基礎調査を実施しており、その一環として浅野小学校に所在する石棺の現況調査を行った。具体的な調査内容は、表面清掃・デジタル写真の三次元合成・図化である。また、この各種工程の中で、石棺の加工痕、破損状況、劣化の程度などについて詳細な観察を加え、所見を最終的に図化した。

6まとめ

破壊され、桶に転用された石棺であったが、破損状況の詳細な観察により、枕の本来の範囲と推測される形状、あるいは内外面に残る加工痕等について新たな観察所見を得た。また、下半を中心にして石棺表面の劣化と層状の剥離が進行していることが明らかとなった。（高上）



第 58 図 調査位置図 (S=1/5000)

38. 三谷石舟古墳

- 1 所 在 地 高松市三谷町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 4 月 12 日～4 月 17 日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 重要遺跡確認調査
- 5 調 査 の 概 要

対象地は市指定史跡「三谷石舟古墳」内に位置する。前方部前端付近に、産業廃棄物を遺棄するために掘られた土坑が 2 基並列して存在する。この土坑は平成 4 年の測量図（第 60 図右上）に既に記載されており、内容物から現代の行為であることが判明した。今回、この廃棄物の撤去を契機に、土坑断面を利用した墳丘の確認調査を実施した。

北側の土坑を利用した調査区を北トレント、南側を南トレントと呼称する。北トレントでは現地表面から 1.0m 程度、南トレントでは最深部で 1.5m の深度まで廃棄物が存在した。なお、記録にあたり採用した標高は、平成 28 年度に後円部上に打設した基準杭を基に行なったが、第 60 図右上の測量図と比較すると、後円部上で約 1.5m の標高のずれが生じている。今回の記録類の標高と過去の測量図を比較する際には、便宜的に後者の標高に 1.5m を加算した数値で比較するものとする。

トレント概要 北トレントは平面長方形を呈する廃棄坑を利用したトレントである。廃棄物の除去後、断面観察を行い、南壁断面を図化した。墳丘に関連する可能性があると考えられるのは、3・4 層である。いずれも遺物を含まないが、前者は明黄褐色系と灰褐色系の粘土が斑に混和されているのにに対して、後者は明黄褐色系粘土が均質に観察できる。いずれも細かな単位に分層ができない点では地山の可能性を想定したが、この場合南トレントにおける地山・盛土との関係が問題となる。この点については後述する。

南トレントは平面長方形で法面をもちつつ一部が急激に深く掘り込まれた廃棄坑部と、削平された斜面部に廃棄物を盛り付けた範囲を含む不定形なトレントである。廃棄物の除去後、清掃を実施した



第 59 図 調査位置図 (S=1/5000)

ところ、底面付近で砂岩円礫と安山岩板石からなる集石が確認できた。集石の広がりを確認するため、南北2箇所で東西方向に断割を行った。この結果、集石はトレント南端付近で短辺約0.8m、長辺約1.2mの範囲に広がることを確認した。なお、トレント西端付近の石材については、数石廃棄物の除去時に誤って除去しており、本来図化した範囲よりもやや西側に広がる可能性がある。

地山と盛土について 特に南トレントにおいて、墳丘盛土と地山に関連する所見を得ることができたため、南トレントを中心的に整理する。南トレント北断割（断面A）では、当初集石の範囲を確認するための断割を行ったが、その際に東側（墳丘側）において、垂直方向に明確な分層線が引けることを確認した。この垂直分層線を境に、墳丘側では堆積の単位が大きく（厚く）、極めて均質で堅密な堆積層が確認できるのに対し、西側（前端側）では堆積の単位が小さく（薄く）、比較的しまりが弱く、間層として植物の腐朽層を挟む堆積状況を確認した。以上の土質から、後者は二次的な堆積層であり、盛土の可能性が高いと判断するに至った。前者については、地山の堆積層を複数地点で確定できているわけではなく、異なる単位の盛土である可能性も否定できないが、均質な土質からは地山の可能性が高いと考えている。今後周辺の調査を行う際にはこの点に留意して調査を行う必要がある。本稿では、上記の所見に基づき、図中にも地山マークを付している。

集石について 上面検出時は地山中に含まれる疊の可能性も想定したが、分布が平面的に限定されること、同程度（長径20cm程度）の砂岩円礫と安山岩板石という異なる石材が集石していることから、人為的な集石の可能性が高いと判断した。なお、遺物は伴わない。断割を行っていないため、厚さは不明であるが、部分的に2~3石がラフに重なった箇所も認められる。この集石は、上記の盛土に被覆されており、墳丘構築に先行する、あるいは同時に施工されたものと考えられる。集石は意図的に組まれた様子は見られず、乱雑に集石したのみに見える。また、掘方は検出しておらず、掘り込みを伴わない可能性が高い。検出した石材上面の標高は41.0m前後である。平成4年の墳丘測量図と対比する場合は、39.5m付近に該当する。これは、現在前方部前端に所在する田の上面よりも低い値で、北側に隣接する石舟池の汀線付近にあたる。墳丘は谷に開まれた丘陵上に築造されているが、盛土の施工面が現地表よりもかなり低い地点から認められることは、古墳築造時の旧地形を復元する上で重要なである。丘陵の切断及び端部の整形に伴う作造の可能性も考えられる。集石は盛土に被覆されており、墳丘構築と同時、ないし先行するものと考えられるが、契機としては、偶発的な用材の埋没のほか、何らかの排水機能を期待された構造物の可能性も考えられる。調査中に集石中に水の浸み出しが認められたことも、後者の可能性を示唆する。

墳丘における集石・盛土の位置づけ 調査地は前方部前端付近にあたり、國木健司、藏本晋司（國木編1992・藏本1995）による墳丘推定において前方部前端付近に相当する。地形の傾斜変換から導かれた墳形の推定であるが、この推定は南トレント内断割で推定した地山と盛土との境界の理解と整合的である。盛土の施工面の標高が周囲と比べて非常に低い地点から確認されている点も、墳端付近であり、丘陵の切断や旧地形の克服といった点から説明できるのではないだろうか。また、國木健司は墳丘の外周に安山岩板石を用いた基壇状の段を想定しており、今回検出した集石の内、安山岩板石が用いられる点が共通する。墳丘構築の最下段付近の構造に関連する可能性も考えられる。また、この種の石材については、現地供給材ではないと考えられ、搬入が想定される。今回、安山岩板石については2石サンプルを持ち帰っており、産地分析を行う計画としている。

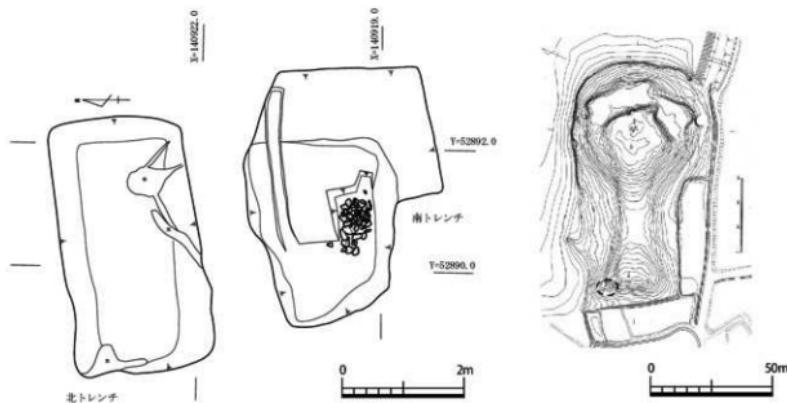
南トレントで検出した地山・盛土の関係から、北トレントの堆積を改めて確認すると、均質な堆積を見せた4層について、標高からは南トレントの盛土よりもかなり高いことから、盛土の一部と推定することが可能である。あるいは、旧地形の凹凸に基いて、北トレントでは地山が西側に突出した地点を検出した可能性も考えられるが、トレント間の距離が近いため、自然地形の凹凸と解釈するのは困難であろう。今後、当古墳の盛土・地山の理解が蓄積される中で改めて評価する必要があるが、今回は前者の解釈を採用しておきたい。

6まとめ

狹小な範囲であるが、古墳築造時の旧地形・盛土の関係を検討する際の一つの定点を得ることができた。また、集石は古墳築造開始期の意図的な石材の搬入と使用を反映した可能性がある。古墳の規模・構造に関連する重要な情報であるため、今後機会を得て追検証する必要がある。（高上）

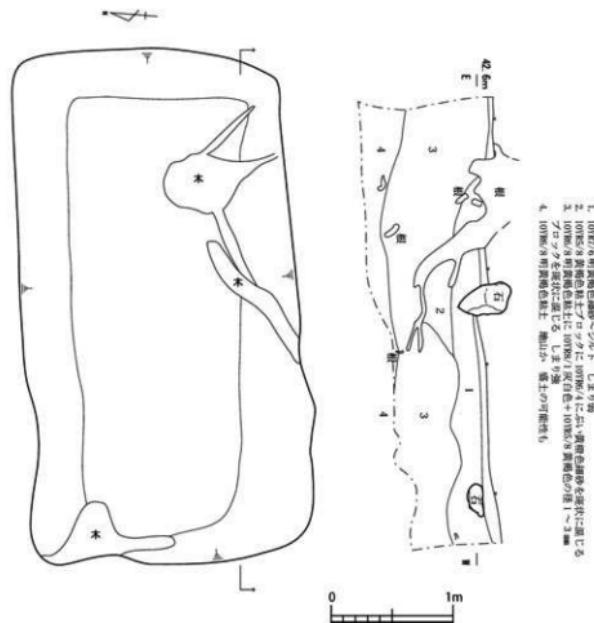
参考文献 国木健司編 1992『三谷石舟古墳測量調査報告書』高松工芸高校郷土史研究会

藏本晋司 1995「香川県高松市三谷石舟古墳の再検討」『香川考古』第4号



トレンチ配置図 (S=1/80)

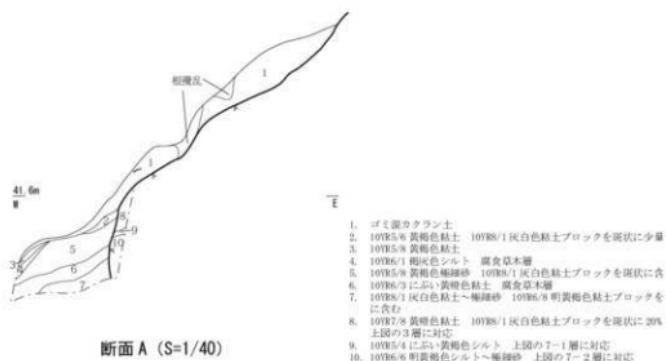
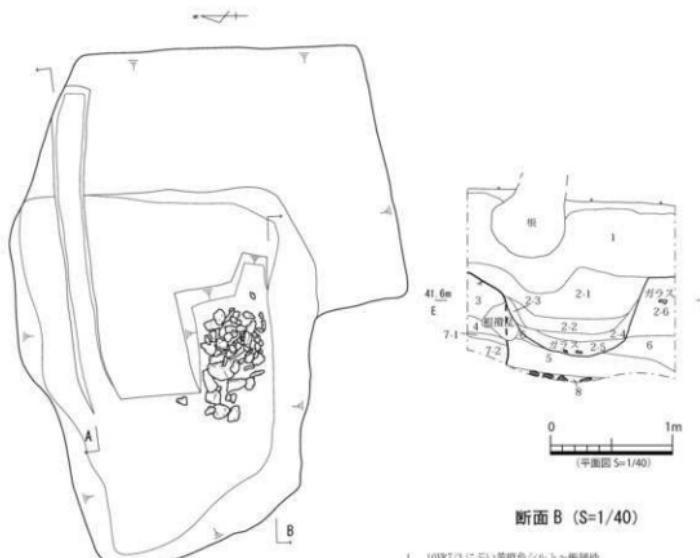
調査地概略図 (S=1/2,000)
下図は添木編 1992『三谷石舟古墳測量調査報告書』より



北トレンチ平面図 (S=1/40)

北トレンチ断面図 (S=1/40)

第60図 調査地概略図、トレンチ配置図、北トレンチ平・断面図 (S=1/2,000・1/80・1/40)



第61図 南トレンチ平・断面図 (S=1/40)

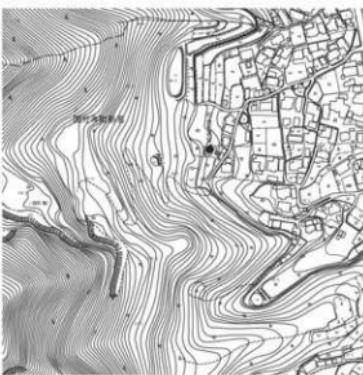
39. 石船石棺

- 1 所 在 地 高松市国分寺町新名
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 8 月 20 日～22 日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓・大久保徹也（徳島文理大学文学部）
- 4 調 査 の 原 因 重要遺跡確認調査
- 5 調 査 の 概 要

徳島文理大学との連携により、市内に所在する削抜式石棺の基礎調査を実施しており、その一環として石船天満宮に安置された石棺の現況調査を行った。具体的な調査内容は、表面清掃・デジタル写真の三次元合成である。この資料を基に図化を行い、石棺の加工痕、破損状況、劣化の程度などについて図化する計画である。

6 まとめ

石棺の下半を中心で劣化が進行しており、浅野小学校石棺と同じく層状に剥離が進行している。今後保護の対策が必要な項目であり、適切な保存方法について検討を進める計画である。（高上）



第 62 図 調査地位置図 (S=1/5000)

40. 史跡高松城跡

- 1 所 在 地 高松市玉藻町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 8 月 6 日～15 日
- 3 調 査 担 当 者 船築 紀子・高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 重要文化財「披雲閣」の耐震補強案検討
- 5 調 査 の 概 要

今回の調査は、重要文化財「披雲閣（旧松平家高松別邸）」の蘇鉄の間の耐震補強案を検討することに伴い、史跡及び名勝への影響を確認するために実施した。

a 基本層序

第 1 ~ 4 レンチとともに表土直下（1 ~ 3 cm）で遺構面を確認した。遺構面は造成土で構成される。

b 遺構の概要

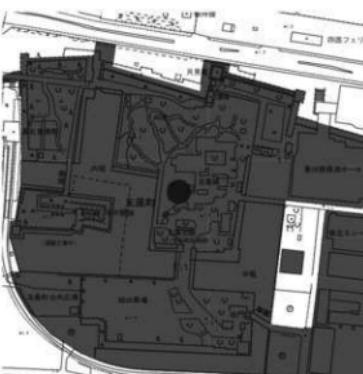
第 1 レンチでは溝と造成土を、2 レンチでピットと造成土を、3 レンチで造成土を、4 レンチでは土坑と造成土を検出した。

c 出土遺物の概要

出土遺物は 1 レンチの溝の断面から瓦と土師質土器片が出土したほか、表土から瓦と土師質土器甕、土師質土器片、磁器片、陶器片、青銅製品、鉄器片、ガラス瓶、骨片が出土した。

6 まとめ

今回の調査によって、地下の遺構面の遺存深度を確認した。今後、重要文化財「披雲閣」の耐震補強案の作成において、地下への影響が最小限になるよう設計が必要である。（船築）



第 63 図 調査地位置図 (S=1/5000)

41. 史跡高松城跡

- 1 所 在 地 高松市玉藻町
- 2 調 査 期 間 平成 30 年 11 月 19 日～11 月 20 日
- 3 調 査 担 当 者 渡邊 誠・高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 重要文化財披雲閣修繕工事
- 5 調 査 の 概 要

今回の調査は、重要文化財披雲閣（旧松平家高松別邸）の井戸屋形・東袖塀の修理に伴い、史跡高松城跡、名勝披雲閣庭園への影響を事前に確認するものであった。控え柱の基礎設置箇所における遺構の有無、その時期を確認し、設置方法を検討するために実施した。

a 基本層序

井戸屋形：第 1 トレンチ①～②

表土（第 1 層）直下で、建物設置に伴う造成土を確認した。トレンチ①では現在設置されている控え柱の掘方が現在の地表面から掘り込まれていることが確認できた。

東袖塀：第 2 トレンチ①～⑤

表土（第 1 層）直下に塀の設置に伴う掘方と考えられるものを④で確認できた。すべての調査区において、表土若しくは表土直下から控え柱の設置のための掘り込みを確認することができた。

b 遺構の概要

井戸屋形：第 1 トレンチ①～②

表土直下の面では、遺構は確認されず、一辺 70 cm 程度の不整形な掘方に控え柱が設置されていることが判明した。トレンチ①では控え柱の掘方の中から、建物の礎石と考えられる大型石材を確認し、控え柱はこの礎石を避けるように設置されていた。トレンチ②では控え柱の掘方を確認した。

東袖塀：第 2 トレンチ①～⑤

トレンチ①では控え柱の下に一辺 15 cm 角の石材（以下、基礎石）を設置していることが判明した。その下層は、モルタルによって 50 ～ 60 cm 程度の範囲に基礎石のための不整形な台座が設置されている。トレンチ②では 50 ～ 80 cm の不整形な掘方の底にコンクリート板を設置し、その上に柱を立てていることが判明した。トレンチ③～⑤では長軸方向に細長い 50 ～ 80 cm 程度の不整形な掘方の底にコンクリート板を設置し、その上に柱を立てていることが判明した。

c 出土遺物の概要

遺物は控え柱の掘方や表土とともに、少量の瓦や陶磁器類が出土した。

6まとめ

今回の調査によって、控え柱設置予定箇所は既存の控え柱で擾乱されていることが明らかになったが、井戸屋形のトレンチ①では礎石と考えられる石材を確認することもできた。このことから、地表下に遺構が遺存していることも判明した。（渡邊）



第 64 図 調査地位置図 (S=1/5000)



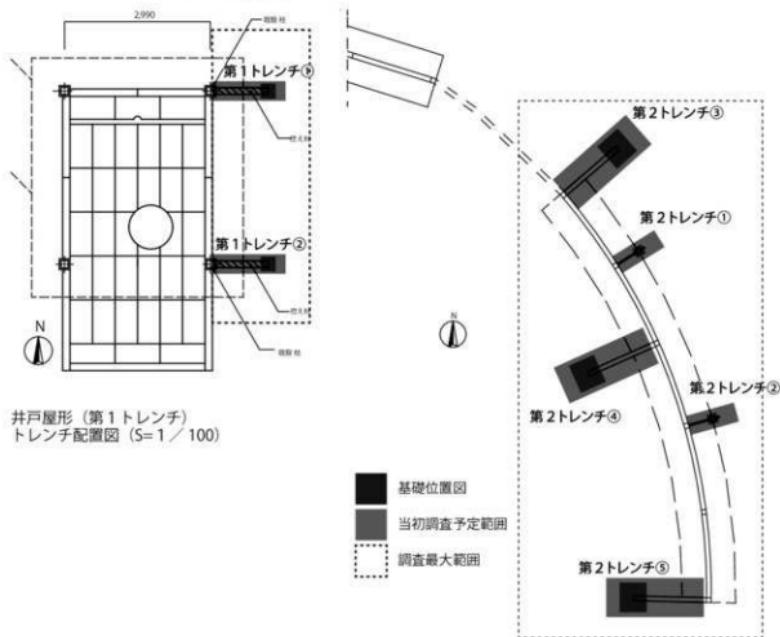
写真 1 井戸屋形状況 第 1 トレンチ①掘削状況



写真 2 東袖塀 第 2 トレンチ④掘削状況

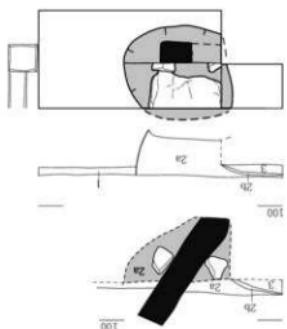


トレンチ配置図



第65図 東袖塙（第2トレンチ）トレンチ配置図 ($S=1/100$)

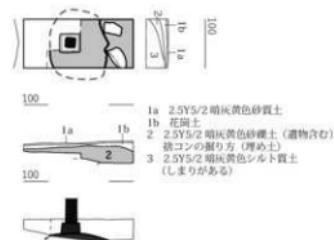
井戸屋形 トレンチ①



井戸屋形 トレンチ②



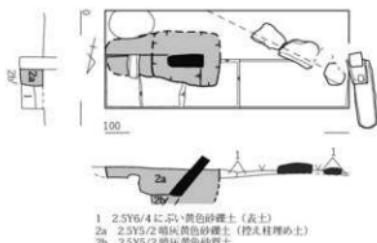
東袖堀 第2トレンチ①



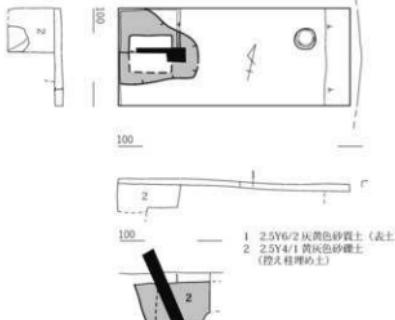
東袖堀 第2トレンチ②



東袖堀 第2トレンチ③



東袖堀 第2トレンチ④



東袖堀 第2トレンチ⑤



第66図 井戸屋形・東袖堀トレンチ平面図・断面図 (S=1/40)

報告書抄録

ふりがな	たかまつしないいせきはくつちょうさがいほう						
書名	高松市内遺跡発掘調査概報						
副書名	平成30年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書						
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第198集						
編著者名	渡邊 誠・高上 拓・波多野 篤・鈴築 紀子・香川 将慶・梶原 慎司・森原 奈々(編)						
編集機関	高松市教育委員会						
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 Tel. 087(839)2660						
発行年月日	平成31年3月29日						
ふりがな 所収遺跡名	調査地 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査後の措置
旧南海道跡 萩前・一本木遺跡	出作町	37201 10802 10971	34° 16'55"	134° 03'11"	H29.11.27~ H29.12.6	311.0 m ²	(旧南海道跡) 包蔵状況確認 工事立会 (赤坂地区) 包蔵地確認 工事立会
旧南海道跡 萩前・一本木遺跡	仏生山町	37201 10802 10971	34° 17'02"	134° 02'42"	H30.1.25	65.0 m ²	包蔵状況確認
龍満城跡	香川町 川東下	37201 40024	34° 15'03"	134° 01'33"	H30.1.30	20.0 m ²	包蔵状況確認 工事立会
上天神遺跡	田村町	37201 10597	34° 18'45"	134° 02'04"	H30.3.19~ H30.4.5	160.0 m ²	包蔵地確認 工事立会
中林 遺跡	林町	37201 10976	34° 17'32"	134° 04'31"	H30.3.22~ H30.3.23	58.4 m ²	包蔵地確認 工事立会
多肥上立石遺跡 旧南海道跡	多肥上町	37201 11010 10802	34° 16'55"	134° 03'11"	H30.4.18~ H30.4.19	80.0 m ²	(立石地区) 包蔵地確認 (旧南海道跡) 包蔵状況確認 工事立会
浴長池遺跡	林町	37201 10604	34° 18'21"	134° 04'08"	H30.4.19~ H30.4.20	20.5 m ²	包蔵地確認
峰友遺跡	川島東町	37201 11012	34° 16'22"	134° 05'40"	H30.4.26~ H30.4.27	120.0 m ²	包蔵地確認 工事立会
上西原遺跡	木太町	37201 10819	34° 18'45"	134° 04'10"	H30.5.1	30.0 m ²	包蔵地確認 開発中止
新田本村遺跡	新田町	37201 10813	34° 19'31"	134° 06'09"	H30.7.11	32.0 m ²	包蔵地確認
茶里跡	香南町 横井	37201 50017	34° 14'52"	134° 00'46"	H30.7.30~ H30.8.1	148.0 m ²	包蔵状況確認
新名氏屋敷跡	国分寺町 新名	37201 70144	34° 17'11"	133° 57'26"	H30.10.15~ H30.10.16	32.0 m ²	包蔵状況確認
中林 遺跡	林町	37201 10976	34° 17'36"	134° 04'30"	H30.10.30~ H30.10.31	150.0 m ²	包蔵状況確認 工事立会
川島郷遺跡	川島東町	37201 11002	34° 16'23"	134° 05'40"	H29.12.7	26.0 m ²	包蔵地確認 発掘調査
東井坪地区	中間町	37201 —	34° 17'37"	133° 59'40"	H30.1.31~ H30.2.5	250.0 m ²	包蔵地確認されず
松ノ内遺跡	多肥上町	37201 11008	34° 17'33"	134° 03'03"	H30.2.21~ H30.2.22	129.0 m ²	包蔵地確認 発掘調査 工事立会
飯田西13・14・17・18・ 23号塚	飯田町	37201 10105 10106 10109 10110 10115	34° 19'24"	134° 00'04"	H30.3.1~ H30.3.13	40.0 m ²	包蔵状況確認 発掘調査
池の内遺跡II	多肥下町	37201 10626	34° 17'51"	134° 03'37"	H30.4.6~ H30.4.12	25.0 m ²	包蔵状況確認 慎重工事

大工町地区	大工町	37201	—	34° 20'43"	134° 03'02"	H30.4.9～ H30.4.10	18.0 m³	包蔵地確認されず*
磨屋町地区								
宮西・一角遺跡	林町	37201	10810	34° 17'43"	134° 04'04"	H30.4.17	63.0 m³	包蔵地確認 発掘調査 工事立会
須川地区	太田下町	37201	—	34° 18'33"	134° 02'50"	H30.4.16～ H30.4.23	39.0 m³	包蔵地確認されず*
宮尻地区	多肥上町	37201	—	34° 17'31"	134° 03'33"	H30.4.27～ H30.5.1 H30.10.31～ H30.11.2	155.0 m³	包蔵地確認されず*
内町地区	内町	37201	—	34° 20'46"	134° 03'13"	H30.6.4～ H30.6.7	6.0 m³	包蔵地確認されず*
溝田地区	屋島中町	37201	—	34° 20'35"	134° 06'04"	H30.6.28～ H30.7.3	8.0 m³	包蔵地確認されず*
東山崎・水田遺跡	東山崎町	37201	10608	34° 18'05"	134° 05'41"	H30.7.9～ H30.7.10	46.0 m³	包蔵地確認 発掘調査 工事立会
日暮地区	多肥上町	37201	—	34° 17'47"	134° 03'31"	H30.7.17～ H30.7.18	32.0 m³	包蔵地確認されず*
平塚地区	木太町	37201	—	34° 18'39"	134° 03'52"	H30.7.19	13.0 m³	包蔵地確認されず*
御厩池遺跡	御厩町	37201	10220	34° 18'02"	133° 58'51"	H30.7.23	10.0 m³	包蔵状況確認されず* 工事立会
屋島山上南嶺地区	屋島東町	37201	—	34° 21'30"	134° 05'55"	H30.7.24～ H30.7.25	43.0 m³	包蔵状況確認されず*
半田地区	飯田町	37201	—	34° 18'52"	133° 59'34"	H30.9.3～ H30.9.5	9.0 m³	包蔵地確認されず*
旧南海道跡	仏生山町	37201	10802	34° 17'04"	134° 02'23"	H30.10.15	66.0 m³	包蔵状況確認されず* 慎重工事
平塚地区	木太町	37201	—	34° 18'39"	134° 03'56"	H30.10.16	40.0 m³	包蔵地確認されず*
道下地区	円座町	37201	—	34° 17'42"	134° 00'32"	H30.11.21～ H30.11.22	51.0 m³	包蔵地確認されず*
万町地区	国分寺町新居	37201	—	34° 17'50"	133° 57'52"	H30.11.27	15.0 m³	包蔵地確認されず*
勝賀城跡	鬼無町	37201	10042	34° 20'26"	133° 58'51"	H29.12.4～ H30.2.1	100.0 m³	包蔵状況確認 現状保存
今岡古墳	鬼無町	37201	10060	34° 19'51"	133° 59'20"	H30.3.12～ H30.3.20	5.0 m³	包蔵状況確認 現状保存
浅野小学校所在石棺	香川町 浅野	37201	—	34° 15'32"	134° 02'30"	H30.3.29～ H30.3.30	3.0 m³	現状保存
三谷石舟古墳	三谷町	37201	10683	34° 16'10"	134° 04'29"	H30.4.12～ H30.4.17	20.0 m³	包蔵状況確認 現状保存
石船石棺	国分寺町新名	37201	70132	34° 16'53"	133° 57'05"	H30.8.20～ H30.8.23	8.0 m³	現状保存
史跡高松城跡	玉藻町	37201	10259	34° 21'00"	134° 03'05"	H30.8.6～ H30.8.15	8.6 m³	包蔵状況確認 現状保存
史跡高松城跡	玉藻町	37201	10259	34° 21'00"	134° 03'05"	H30.11.19～ H30.11.20	8.0 m³	包蔵状況確認 現状保存

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
旧南海道跡 萩前・一本木遺跡	その他の遺跡 集落	古墳時代・中世	竪穴建物・溝・流路	弥生土器・土師器・須恵器・石器
旧南海道跡 萩前・一本木遺跡	その他の遺跡 集落	古墳時代～古代	竪穴建物・土坑・溝	土師器・須恵器
龍満城跡	城館跡	中世	石列・集石	土師器
上天神遺跡	集落	古代	土坑・ピット	土師器・須恵器・瓦・陶磁器
中林遺跡	集落	弥生時代～古墳時代	溝・土坑・性格不明遺構	土師器・須恵器
多肥上立石遺跡 旧南海道跡	集落 その他の集落	古墳時代～飛鳥時代・近世	溝・土坑・ピット・不明遺構	円筒埴輪・土師器・須恵器・陶器
沼・長池遺跡	集落	弥生時代	自然流路	弥生土器
峰友遺跡	集落	弥生時代・中世	溝・ピット・不明遺構(畦畔か)	弥生土器・土師器・須恵器
上西原遺跡	生産遺跡	弥生時代	水田	土師質土器
新田本村遺跡	集落	古代	ピット	須恵器・土師器
条里跡	その他の遺跡 (条里跡)	古墳時代～古代	—	須恵器・土師器
新名氏屋敷跡	城館跡	古代～近世	土坑・ピット	土師器・陶磁器
中林遺跡	集落	中世以前	溝・不明遺構	須恵器・土師器
川島郷遺跡	集落	中世	溝・ピット	土師器
東井坪地区	—	—	溝・流路	土師器・須恵器
松ノ内遺跡	集落	古代～中世	住居跡・土坑・流路・ピット	土師器・須恵器・土師質土器・陶磁器
飯田西13・14・17・18・23号塚	その他の墓	中世～現代	塚	土師器・陶磁器・瓦
池の内遺跡II	散布地	不明	粘土探掘坑?・不明遺構	須恵器・磁器
大工町地区 磨屋町地区	—	近世～近代	土坑・石列	瓦質土器・陶磁器・瓦
宮西・一角遺跡	集落	弥生時代・古代	溝・ピット・性格不明遺構	弥生土器・土師器・須恵器
須川地区	—	—	—	須恵器・陶磁器・石器
宮尻地区	—	古墳時代	自然流路	弥生土器・土師器・須恵器・石器
内町地区	—	—	—	—
崖田地区	—	—	—	—
東山崎・水田遺跡	集落	中世	溝・土坑・ピット	須恵器・土師質土器・磁器
日暮地区	—	近世	粘土探掘坑・ピット	陶磁器・土器片

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
平塚地区	—	—	—	—
御履池遺跡	—	—	—	—
星島山上南嶺地区	—	—	—	—
半田地区	—	—	—	陶磁器
旧南海道路	—	—	—	—
道下地区	—	—	—	須恵器・土師器
万灯地区	—	—	ピット	—
平塚地区	—	—	溝	土師器
勝賀城跡	城館跡	中世	—	陶磁器
今岡古墳	古墳	古墳時代	—	埴輪
浅野小学校所在石棺	古墳	古墳時代	石棺	—
三谷石舟古墳	古墳	古墳時代	礫群・盛土？	—
石船石棺	古墳	古墳時代	石棺	—
史跡高松城跡	城館跡	近世～近代	溝・土坑・ピット・造成土	瓦・土師質土器・陶磁器・青銅器・鉄器
史跡高松城跡	城館跡	近世～近代	礎石	瓦・陶磁器

高松市埋蔵文化財調査報告第198集

高松市内遺跡発掘調査概報

- 平成30年度国庫補助事業 -

平成31年3月29日 発行

編 集 / 発 行 高松市教育委員会

高松市番町一丁目8番15号

印 刷 藤田印刷株式会社